

令和元（2019）年度 第2回 水工学委員会および幹事会

日 時：令和1年11月4日（月）18:15～20:30（最大）

場 所：大宮ソニックシティ 会議室 906

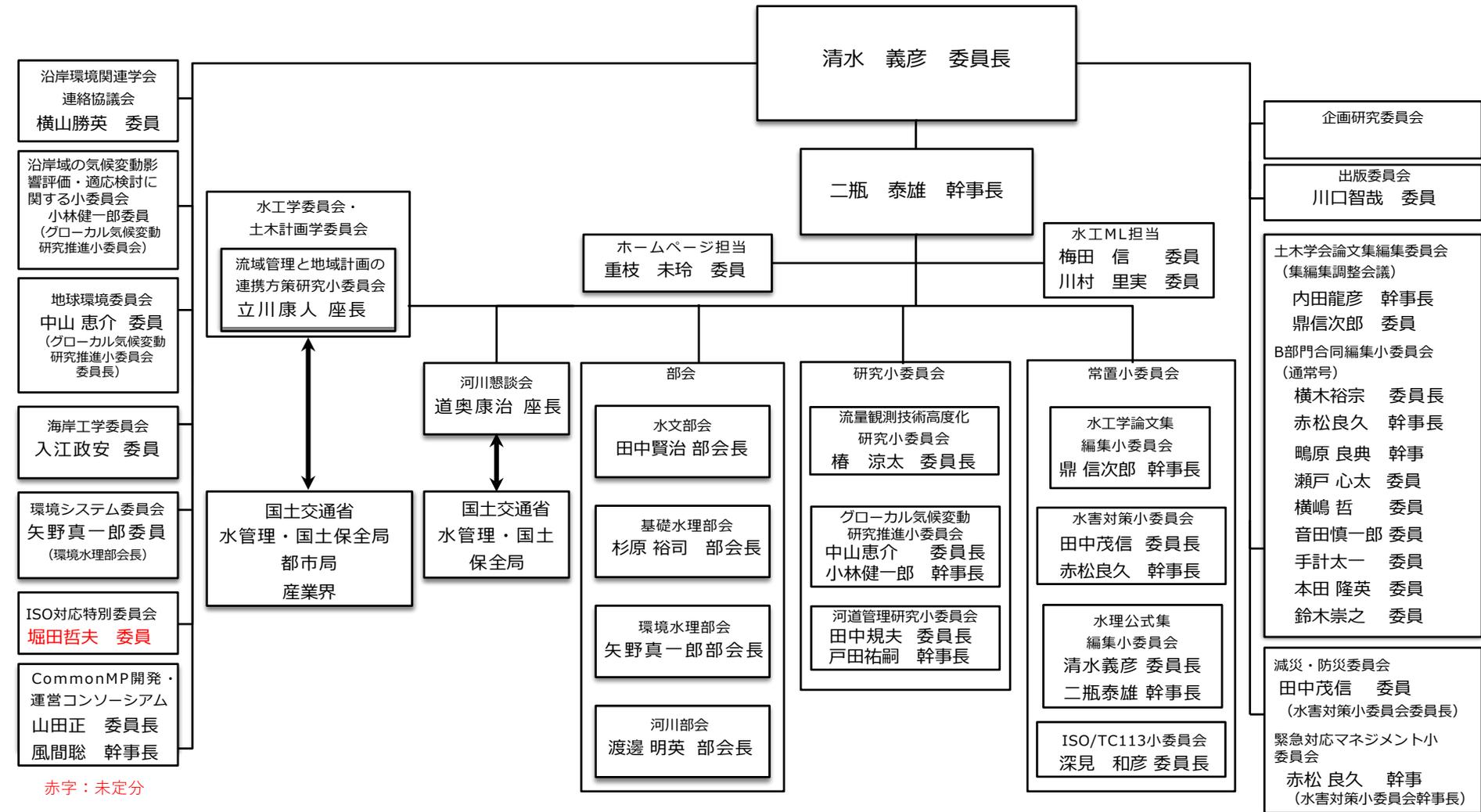
0. 清水委員長挨拶

《報告事項》

1. 令和元年度水工学委員会構成（幹事長） 資料1 p.1
2. 令和元年度水工学論文集編集作業（鼎編集幹事長） 資料2 p.2
3. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画 資料3 p.8
 - ▶部 会：水文部会（田中賢委員，資料3-1）
河川部会（渡邊委員，資料3-2）
基礎水理部会（杉原委員，資料3-3）
環境水理部会（矢野委員，資料3-4）
 - ▶小委員会：水害対策小委員会（田中茂委員，資料3-5）
ISO/TC113小委員会（萬矢委員）
流量観測高度化小委員会（椿委員，資料3-6）
グローバル気候変動適応研究推進小委員会（中山委員，資料3-7）
河道管理小委員会（田中規委員，資料3-8）
 - ▶関連委員会：CommonMP（風間委員，資料3-9）
流域管理と地域計画の連携（立川委員，資料3-10）
河川懇談会（道奥顧問，資料3-11）
海岸工学委員会（入江委員，資料3-12）
IAHR Japan Chapter（田中規委員，資料3-13）
土木学会論文集編集委員会（内田委員，資料3-14）
水理公式集編集小委員会，減災・防災委員会，沿岸域気候変動，沿環連，地球環境，
環境システム，ISO対応，出版委員会
4. 令和元年度水工学に関する夏期研修会（名工大，戸田委員） 資料4 p.57
5. 水シンポジウム2019in滋賀（幹事長） 資料5 p.64
6. 水工学のML（梅田委員，川村委員） 資料6 p.66
7. 令和元年度の年間スケジュール（幹事長） 資料7 p.68
8. その他

《協議事項》

1. 令和2年度第65回水工学論文集編集作業（鼎編集幹事長） 協議資料1 p.1
2. 令和2年度第65回水工学講演会の開催（富山，手計委員） 協議資料2 p.2
3. 令和2年度水工学に関する夏期研修会（森脇委員） 協議資料3 p.9
4. 令和2年度水シンポジウム（群馬県，清水委員長） 協議資料4 p.11
5. 令和元年度水工学委員会の予算（幹事長） 協議資料5 p.17
6. 水シンポジウムの課題 協議資料6 p.18
7. その他



赤字：未定分

1. 投稿数・採択数

投稿数: 315編 採択数: 247編

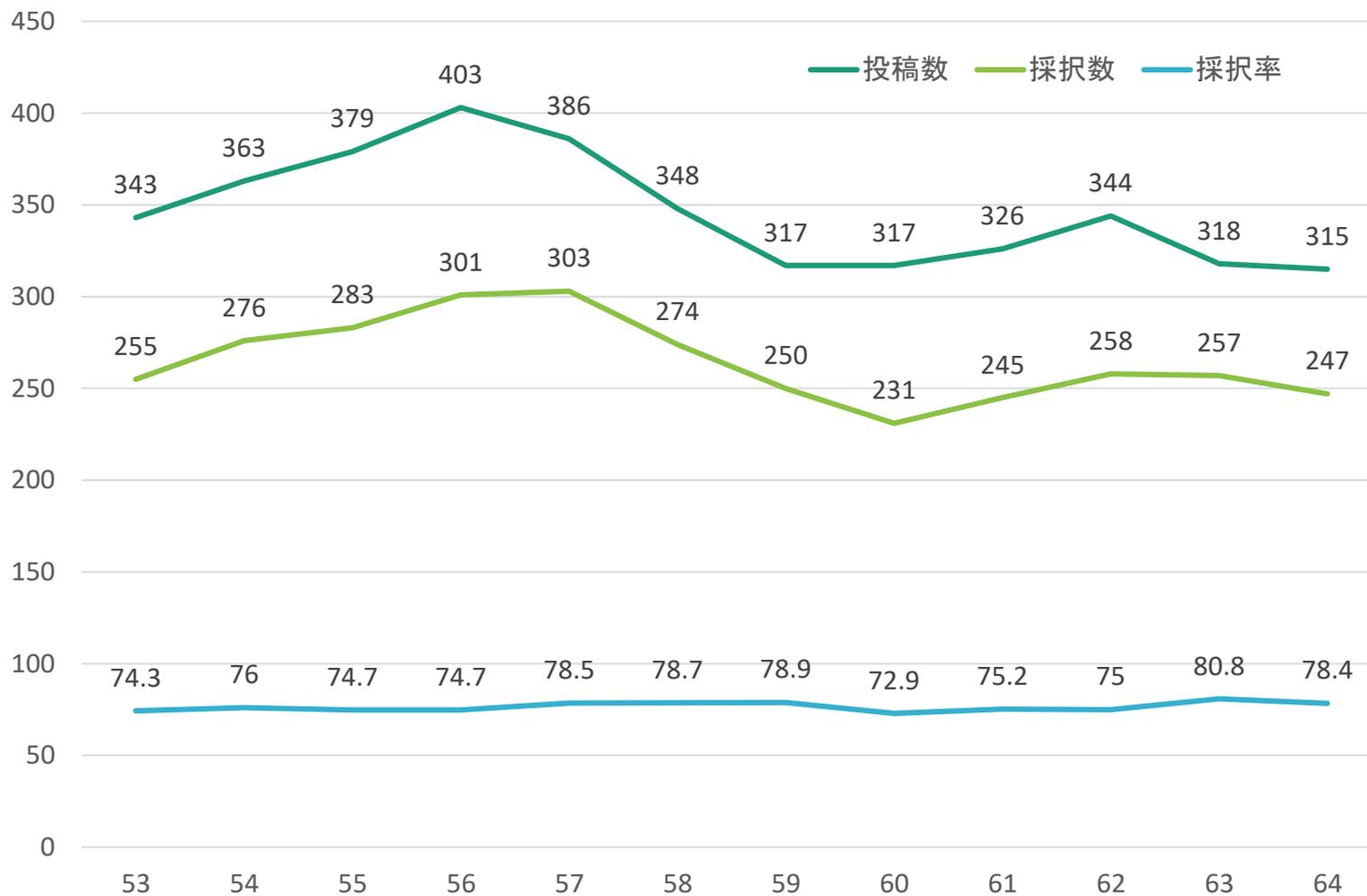
巻	年	投稿数	採択数	採択率
53	2009	343	255	74.3
54	2010	363	276	76.0
55	2011	379	283	74.7
56	2012	403	301	74.7
57	2013	386	303	78.5
58	2014	348	274	78.7
59	2015	317	250	78.9
60	2016	317	231	72.9
61	2017	326	245	75.2
62	2018	344	258	75.0
63	2018	318	257	80.8
64	2019	315	247	78.4

※ 加えて「通常号」からの講演: 14編

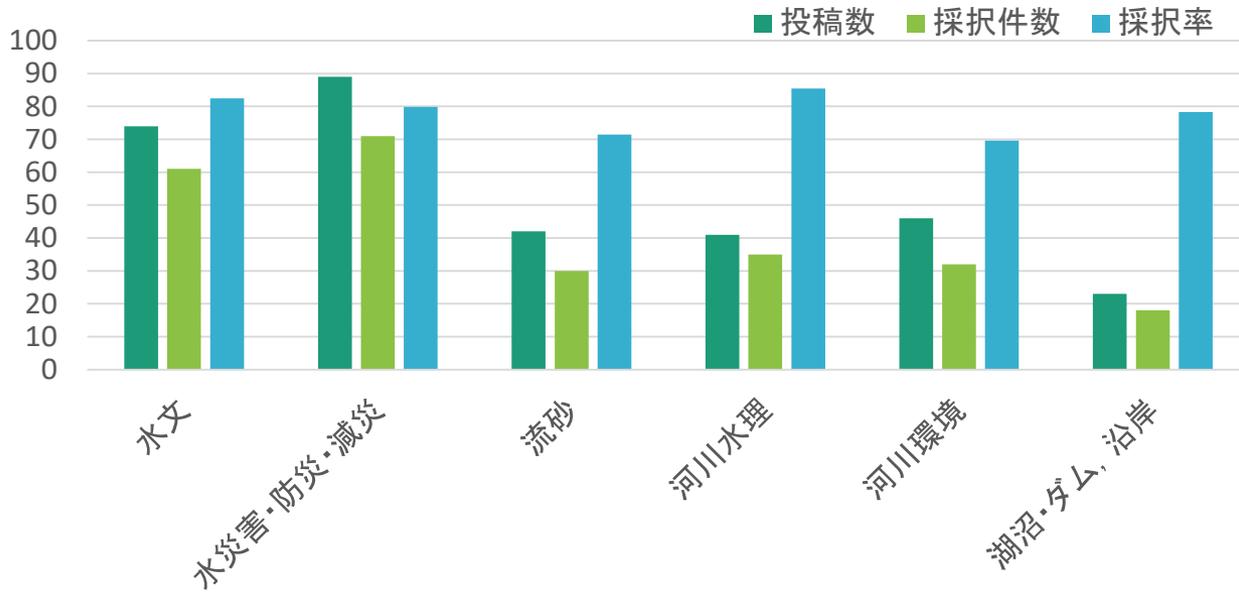
2. 分野別: 水災害・防災・減災分野へ多くの投稿傾向!

分野	査読キーワード	キーワード別		分野別		
		投稿数	採択件数	投稿数	採択件数	採択率
水文	水文気象プロセス	9	6	74	61	82.4%
	生態水文	1	1			
	気候変動とリスク評価	23	19			
	降水	14	12			
	流出解析	12	9			
	水文統計／水文情報	5	5			
	雪氷水文	3	3			
	地下水・浸透	7	6			
水災害・防災・減災	流域管理・洪水リスク管理	21	14	89	71	79.8%
	水災害・防災・減災	51	43			
	水害・氾濫の水理	17	14			
流砂	流域土砂動態	8	5	42	30	71.4%
	流砂	10	8			
	河床形態・流路形態	14	8			
	河床変動	10	9			
河川水理	管路・局所流	3	3	41	35	85.4%
	開水路の水理	15	11			
	密度流・噴流・拡散	1	1			
	水理現象の数値解析	10	8			
	流体力・流体振動・波動	2	2			
	観測技術	10	10			
河川環境	河道・流域の環境・環境評価	11	10	46	32	69.6%
	流域の流出負荷・河川の水質	5	4			
	水生生物・魚道	22	11			
	河道の植生	6	6			
	河道の物理環境	2	1			
湖沼・ダム, 沿岸	湖沼・貯水池の水理と環境	10	6	23	18	78.3%
	沿岸・河口域の水理と環境	7	6			
	津波	6	6			
計		315	247	315	247	78.4%

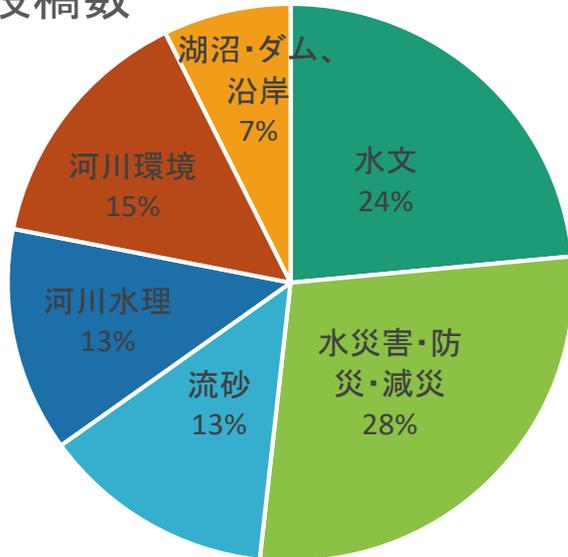
3. 53巻～64巻の投稿数等 推移



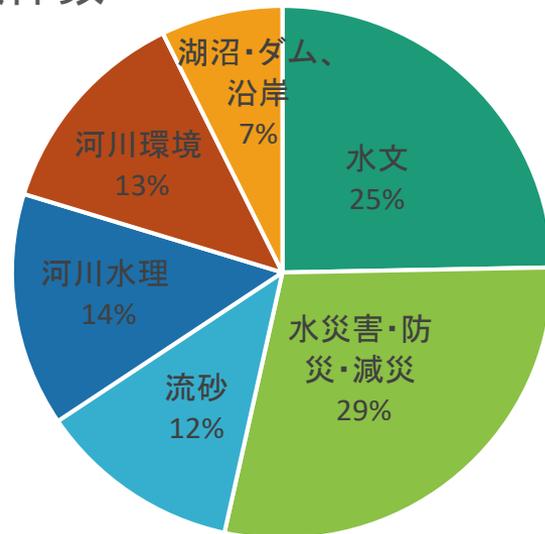
分野別 投稿数・採択件数・採択率



投稿数



採択件数



2. 『講演会としての活性化』を目指した試み(継続)

- ・通常セッションと国際セッションの融合
- ・司会者2名体制(シニア・中堅＋若手)
- ・各セッションに総合討議の時間を配置
- ・アウトスタンディング・ディスカッション賞

Best International Paper Award (水工学論文集63巻)

受賞者: Wendi HARJUPA (Kyoto University)

受賞論文: RDCA INDEX BASED UPDRAFT AREA
AND ITS VERIFICATION USING
POLARIMETRIC DOPPLER RADAR

(共著者: Eiichi NAKAKITA, Yasuhiko SUMIDA and Aritoshi MASUDA)

・企業広告を論文集CDに導入
 (第62回:10社 第63回:12社 第64回:18社)

水工学講演会の開催にあたり、本欄に掲載の企業・団体よりご支援いただいております。

 アジア航測株式会社 ASIA AIR SURVEY CO.,LTD.	人と地球の未来のために—  いであ株式会社	 EJEC 株式会社 エイト日本技術開発
 建設コンサルタント 株式会社エコー	OYO 応用地質株式会社	 株式会社 建設環境研究所
 株式会社 建設技術研究所 http://www.ctie.co.jp	Japan Asia Group  国際航業株式会社	 海のなんでも屋 株式会社ジャパンジャスティス
 総合建設コンサルタント 株式会社ドーコン	 株式会社東京建設コンサルタント TOKEN C. E. E. Consultants Co.,Ltd.	
NIPPON KOEI 日本工営株式会社		 株式会社 ハイドロ総合技術研究所
 Pacific Consultants	MCC 三井共同建設コンサルタント MITSUI CONSULTANTS CO., LTD.	 八千代エンジニアリング株式会社

各社の詳細は、CD 論文集の関連企業案内をご参照いただくとともに、CD 内のバナーリンクをクリックして各社 HP をご覧ください。

この余白に、水工学講演会をサポートしていただける企業からの支援を随時募集しています。suiko@jsce.or.jp までお問い合わせください。

構成

部会長 田中賢治(京都大)
副部会長 鼎信次郎(東工大)
部会員 37名?



R1年度の主な活動

- 水文研究集会@由良川(20名参加) 2019年10月31日～11月1日

佐々木織江(芝工大)

「デブリを含む熱収支氷河モデルの開発と今後の氷河モデル開発の展望」

清水啓太(中央大)

「信頼区間・予測区間に基づく水文頻度解析における不確実性評価」

金枝上英明(中央大)

「豪雨災害が発生した地域における住民の避難行動の分析

-2013年・2014年由良川洪水を例として-

由良川中流部の治水対策現場見学

内水対策、宅地嵩上げ、築堤、排水機場、堤防神社、治水記念館

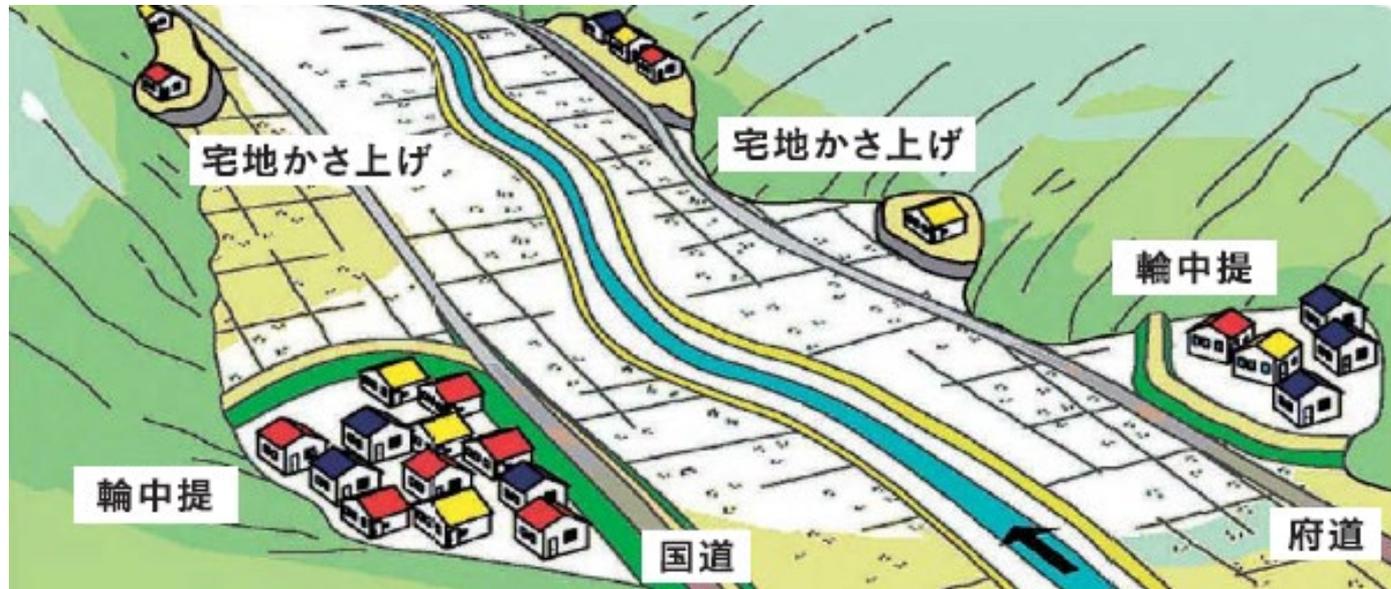
- 第1回水文部会 2019年11月5日 13時～14時 (@会議室702)

水文部会構成

- 部会長
 - 田中賢治(京都大学)
- 副部会長
 - 鼎先生(東京工業大学)
- 河川部会連携委員
 - 吳先生(富山県立大学)
 - 仲吉先生(東京理科大学)
- 地球環境委員会委員
 - 佐山先生(京都大学)

水文部会2019年度活動

- 水文研究集会 2019年10月31日～11月1日
 - 由良川中流部
(内水対策、宅地嵩上げ、築堤、排水機場等)



- 第1回水文部会 2019年11月5日 昼休み

2019年度水文部会研究集会

- 京都府福知山市
あしぎぬ大雲の里 大雲塾舎
- 10月31日(木) 参加者20名



佐々木織江(芝工大)

「デブリを含む熱収支氷河モデルの開発
と今後の氷河モデル開発の展望」

清水啓太(中央大)

「信頼区間・予測区間に基づく水文頻度
解析における不確実性評価」

金枝上英明(中央大)

「豪雨災害が発生した地域における住民の
避難行動の分析-2013年・2014年由良川
洪水を例として-」



下天津(宅地かさ上げ)



河守(輪中堤)



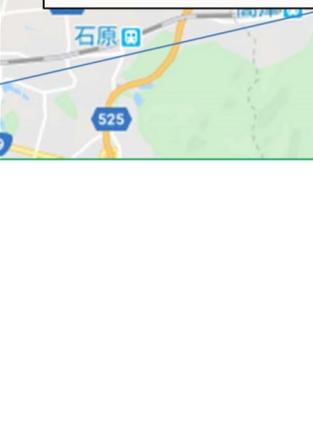
①河守・公庄地区

②下天津宅地嵩上げ

④弘法川排水機場

③川北 築堤

法川排水機場



段畑(排水機場)

川北(築堤)

基礎水理部会 活動報告

2019年度第2回土木学会水工学委員会

2019年11月4日

大宮ソニックシティ

基礎水理部会WebサイトURL

<http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/index.html>

基礎水理部会報告

構成

部会長 杉原裕司(九州大)
副部会長 田中規夫(埼玉大)
幹事 山上路生(京都大)
部会員 25名
アドバイザー 11名



R1年度の主な活動

- 基礎水理シンポジウム@土木学会講堂(幹事:山上先生、R2.3/18開催予定)
- 基礎水理部会河川見学会2019@黒部川・常願寺(7名参加、10/27-29)
- 流木力学に関するWG(リーダー:木村一郎先生):6/4-5@富山市・黒部市において流木キックオフミーティングおよび河川見学会を行った(8名参加).
- 流砂・河床変動に関する若手WG(リーダー:音田慎一郎先生):8/26-27@札幌市において第5回流砂・河床変動若手勉強会を開催した(24名参加).
- 数値解析支援ツールに関するWG(リーダー:井上卓也先生):2019年度前期はIRICの講習を3回実施した(会場:大阪、東京、ハノイ).
- 基礎水理ワークショップ in 2019:4/1@土木学会において開催した(7名参加).
- 水シンポジウム2019 in しが 第1分科会:8/22に滋賀県大津市にて開催した.

土木学会 水工学委員会 基礎水理部会 委員構成

[委員] 25名 [アドバイザー] 11名 2019.06.01現在

[部会長] 杉原 裕司 九州大学 大学院総合理工学研究院 環境理工学部門

[副部会長] 田中 規夫 埼玉大学 大学院理工学研究科 環境システム工学専攻

[幹事] 山上 路生 京都大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻

[委員]

赤穂 良輔	岡山大学	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻
泉 典洋	北海道大学	工学研究科 環境フィールド工学専攻
井上 卓也	土木研究所	寒地土木研究所
岩崎 理樹	北海道大学	大学院工学研究科
鶴崎 賢一	群馬大学	理工学府 環境創生部門
内田 龍彦	広島大学	大学院工学研究科 社会基盤環境工学
岡本 隆明	京都大学	大学院工学研究科 社会基盤工学専攻
鬼束 幸樹	九州工業大学	工学部 建設社会工学科
音田 慎一郎	京都大学	工学研究科 都市社会工学専攻
門田 章宏	愛媛大学	工学研究科 生産環境工学専攻
高岡 広樹	八千代エンジニアリング	九州支店
高橋 正行	日本大学	理工学部 土木工学科
高濱 淳一郎	京都府立大学	生命環境学部 森林科学科
張 浩	高知大学	教育研究部 自然科学系
椿 涼太	名古屋大学	大学院工学研究科 土木工学専攻
永野 博之	群馬高専	環境都市工学科
原田 守啓	岐阜大学	流域圏科学研究センター
久末 信幸	関西電力	技術研究所
平松 裕基	早稲田大学	理工学術院総合研究所
溝口 敦子	名城大学	理工学部 社会基盤デザイン工学科
横嶋 哲	静岡大学	学術院工学領域 数理システム工学系列
吉田 圭介	岡山大学	環境生命科学研究科

土木学会 水工学委員会 基礎水理部会 委員構成（２）

（50音順, 敬称略） 2019.06.01現在

[アドバイザー]

朝位 孝二	山口大学	大学院創成科学研究科
大本 照憲	熊本大学	自然科学研究科 社会環境工学専攻
神田 佳一	明石工業高専	都市システム工学科
木村 一郎	富山大学	都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科
里深 好文	立命館大学	理工学部 環境都市工学科
関根 正人	早稲田大学	創造理工学部 社会環境工学科
富永 晃宏	名古屋工業大学	工学研究科 社会工学専攻
仲座 栄三	琉球大学	工学部 工学科 社会基盤デザインコース
羽田野 袈裟義	九州産業大学	建築都市工学部 都市基盤デザイン工学科
藤田 一郎	神戸大学	工学研究科 市民工学専攻
前野 詩朗	岡山大学	環境生命科学研究科

第24回水シンポジウム2019 in しが

第1分科会「滋賀から発信するしなやかで強靱な流域治水のあり方」

日時：2019年8月22日（木）13:15-14:55

場所：ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター） ピアザホール

コーディネイト担当：水工学委員会 基礎水理部会

- 1. 趣旨：**近年の気象現象、豪雨の発生状況等について理解を深め、“水の威力”からの減災を図るために、行政、研究者、自主防災組織、地域住民などのそれぞれの立場から水害に強い地域づくりに向けた方策を探る。命を守ることを第一とする視点を共有し、優れた地域防災力を有する”しなやかで強靱な”流域治水のあり方について議論・提言する。
- 2. 登壇者：**コーディネータ 土木学会水工学委員会基礎水理部会長 九州大学教授 杉原裕司氏
 - (1)学識者 滋賀県立大学 准教授 瀧健太郎氏（流域政策・計画）
立命館大学 教授 里深好文氏（河川工学）
日本大学理工学部 教授 大沢昌玄氏（都市計画・立地適正化）
 - (2)行政職員 米原市都市計画課 村口智一氏
滋賀県土木交通部流域政策局長 岸田孝史氏
 - (3)地域代表 NHK大津放送局アナウンサー 大山武人氏
日経コンストラクション副編集長 真鍋政彦氏
東近江市葛巻区 前防災部会長 安田清明氏

基礎水理ワークショップin 2019

主催：公益財団法人土木学会水工学委員会基礎水理部会

日時：2019年4月1日(月) 13:00～17:40

場所：公益社団法人土木学会2階A会議室

参加費：無料

趣旨説明：この度、水工学委員会基礎水理部会では、新たな試みとして、基礎水理分野をリードされてきたシニアの先生にご自身のこれまでの研究について概観して頂き、いまだ未解明と思われる水理現象や研究対象について話題提供して頂くことを通じて、ともしれば現象の本質から目を反らし、ただ漠然と研究しているだけになっているかもしれない中堅以下の水理研究者・技術者を刺激して頂くことを意図したワークショップを企画致しました。とは言え、あまり形式張ったものではなく、自由で闊達な雰囲気の中で、通常の学会では発表が難しい途上問題を含めて、水理学的問題の本質の理解を共有・深化させる機会になることを期待しています。年度始めで、また直前でのご案内になりますが、多くの皆様に奮ってご参加頂けると幸いです。

プログラム

13:00－13:05 開会挨拶 基礎水理部会部会長 木村一郎

13:05－14:50 実験水理と乱流に関する話題提供 富永晃宏先生（名古屋工業大学教授）

14:50－15:00 休憩

15:00－16:45 土砂水理に関する話題提供 大本照憲先生（熊本大学教授）

16:45－16:50 総括

16:50－17:00 休憩

17:00－17:40 基礎水理部会（WSに引き続き、基礎水理部会関係者による会合を持ちます）

参加数：7名

2019年度 基礎水理部会 河川見学会

幹事：京都大学 山上路生

①場所：富山県黒部市および富山市（黒部川、常願寺川）

②日時：2019年10月27日（日）～29日（火）

③スケジュール ④参加数 7名

10/27（日）：夕方現地集合（黒部市）

- ・夕方 ホテル会議室にて、定例部会開催

10/28（月）：国土交通省 北陸地方整備局 黒部河川事務所担当

- ・午前～午後 黒部川見学（河口域～宇奈月ダム）／
黒部河川事務所にて現場概要説明、宇奈月ダム会議室にて意見交換会
- ・夕方、富山市へ電車で移動
- ・富山駅前のホテル泊

10/29（火）：国土交通省 北陸地方整備局 富山河川国道事務所担当

- ・午前 常願寺川見学／富山河川国道事務所にて現場概要説明
- ・現地解散

2019年度 基礎水理部会 河川見学会

幹事：京都大学 山上路生



上段：黒部川 下段：黒部川 宇奈月ダム 上段：常願寺川 下段：常願寺川 上滝床固

基礎水理シンポジウム2019

『破堤の水理－洪水氾濫のメカニズム解明とその 対策に向けて－』

主催：公益社団法人 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会

日時：2020年3月18日（水）10:30-17:20

会場：土木学会 講堂（東京都新宿区四谷）

定員：120名

CPD単位：申請予定

参加費：無料

IAHR Working Group on Compound Channels - Benchmarking Case 02 - Uniform Flow in prismatic channel – Tominaga & Nezu (1991)

Ichiro Kimura – 16/08/2019

IAHR複断面流国際ベンチマークテストのご案内 木村一郎（富山大学）

IAHR複断面WG（チーフ：Didier Bousmar）において国際ベンチマークテストを行うことになりました。元データは富永先生と禰津先生による実験（下の論文）です：

Tominaga, A. and Nezu, I (1991), “Turbulent Structure in Compound Open-channel Flows”.

Journal of Hydraulic Engineering, Vol. 117, No. 1, pp.21-41, 1991.

上記はLDV普及以前にホットフィルムにより大変な苦勞のもとで測られたものですが、今なお複断面の流速・乱流計測の高品質なデータとして国際的に広く認知されており、この度のベンチマークに採用されました。対象は2Dあるいは3Dの数値解析モデル（RANS, LES, DNS等含む）です。日本発のデータによるベンチマークですので日本からも奮ってご参加ください。

※本ベンチマークテストの要領については別途ご案内します。

詳細は、木村先生（富山大学）まで：ichiro@sus.u-toyama.ac.jp

Organisation

The test case is done in two steps:

1. Blind step: with the setup and geometry given, and roughness values imposed, each participant uses his model with 'generic' parameters;
2. Tuning step: the results are compared to data, and each participant can 'tune' his model parameters to improve its results.

After this second step, results are presented and discussed during a workshop.

Together with the results, each participant provides information on his method to feed the discussion: equations (reference to existing publications), calibration process and list of data sets used for calibration/development, tuning possibilities, grid size and computational time, etc.

The present test case is prepared and managed by the following pilot group:

- Ichiro Kimura, University of Toyama, Japan (ichiro@sus.u-toyama.ac.jp).
- Akihiro Tominaga, Nagoya Institute of Technology (tominaga.akihiro@nitech.ac.jp).
- Didier Bousmar, Hydraulic Research Laboratory, SPW, Belgium (didier.bousmar@spw.wallonie.be).

Planning

Publication of the test case specification: 01 September 2019

Deadline for submitting results (blind step): 01 January 2020

Measured data transmission to participants: 01 February 2020

Deadline for submitting results (tuning step): 01 May 2020

Workshop & diffusion of results: 07 July 2020 (River Flow 2020, Delft, NL)

基礎水理部会ワーキング・グループ

- 流木力学に関するWG（代表：木村 一郎）
- 流砂・河床変動に関する若手WG（代表：音田 慎一郎）
- 生態水理に関するWG（代表：田中 規夫）
- 河川構造物等に作用する流体力と流れに関するWG
（代表：田中 規夫）
- 数値解析支援ツールに関するWG（代表：井上 卓也）

流木力学に関するWG (代表：富山大学 木村一郎)

キックオフ研究会 テーマ「急流河川の流木動態」

日時：2019年6月4(火)，5日(水)

場所：富山大学都市デザイン学部，黒部川

内容

6月4日(火) ワークショップ

場所：富山大学都市・交通デザイン学科会議室

時間：14:00-17:00

話題提供1 (14:00-15:30)：

京都大学工学研究科 岡本隆明 助教

「流木の橋梁による捕捉過程の力学機構」

話題提供2 (15:30-17:00)：

富山県立大学 手計太一 准教授

「黒部川における流木動態の現地観測」

6月5日(水) 見学会 黒部川 相本堰堤から河口まで

協力：国土交通省北陸地整 黒部川河川事務所 行程は次ページ



富山大学五福キャンパス

参加者

富山県立大学	手計太一	准教授	京都大学	岡本隆明	助教
京都大学	音田慎一郎	准教授	京都大学	カン・テウン	研究員
名城大学	溝口敦子	教授	富山大学	酒井英男	名誉教授
富山大学	曾我宜之	技術員	富山大学	木村一郎	

流木力学WG見学会

日時：2019年6月5日（水曜日）

場所：黒部川，愛本堰堤（扇状地上流から

協力：国土交通省北陸地方整備局黒部川河川事務所

案内：古山副所長様，飯田黒部川出張所長様

行程：8:30富山駅出発 レンタカーで北陸自動車道黒部インター
以下，下の行程表



扇頂 愛本堰堤

【行程】

- | | | |
|---------------|---|-------------|
| 黒部 I C | : | 9:30 |
| ★ ①左岸15.2k | : | 9:45～ 9:55 |
| ②愛本堰堤魚道 | : | 10:00～10:15 |
| ★ ③巨石付盛土砂州 | : | 10:20～10:30 |
| ④縦工 (L9.8k) | : | 10:35～10:45 |
| ☆ ⑤左岸 8.6k | : | 10:50～11:00 |
| ⑥霞堤 (L6.8k) | : | 11:05～11:15 |
| ★ ⑦水制 (R3.2k) | : | 11:25～11:35 |
| ★ ⑧右岸河口 | : | 11:45～12:00 |

<凡例>

★：流木堆積が多かった箇所

☆：流木集積箇所



流砂・河床変動に関する若手WG

(代表：京都大学 音田慎一郎)

第5回流砂・河床変動若手勉強会

日時：2019年8月26日(月), 27日(火)

場所：北海道河川財団(札幌市北区)

テーマ：砂州と数値解析

講演者：

岩見収二(建設技術研究所), 音田慎一郎(京都大学), 安田浩保(新潟大学), 泉典洋(北海道大学), 太田一行(電力中央研究所), 山野井一輝(京都大学), 内田龍彦(広島大学)

参加数：24名

<http://sediment.stars.ne.jp/blog/>

講演内容

8月26日（テーマ：砂州）

1. 岩見収二（建設技術研究所）：樹林化、河岸侵食による砂州の変形と砂州掘削による低水路管理
2. 音田慎一郎（京都大学）：交互砂州形成と流路変動を対象とした3次元数値シミュレーション例
3. 安田浩保（新潟大学）：データ駆動とモデル駆動の協調による砂州の形成機構の解明
4. 泉典洋（北海道大学）：砂州によって誘起される蛇行様河道変動

8月27日（テーマ：数値解析）

5. 太田一行（電力中央研究所）：混合粒径の流砂・河床変動の3次元解析　－多相Euler法と確率論的Lagrange法－
6. 山野井一輝（京都大学）：流域スケールの水・土砂流出シミュレーションとその応用
7. 内田龍彦（広島大学）：混合粒径土砂のオイラー型堆積モデル

数値解析支援ツールに関するWG

(代表：寒地土研 井上卓也)

2019年度前期に実施した講習会

1. iRIC講習会 in 大阪

開催日 2019年6月26日(水)～6月28日(金) 場所 梅田B1Fレンタルスペース貸会議室

共催 摂南大学, 大阪工業大学, iRIC研究会

協賛 北海道河川財団, iRIC-UC

講師 岩崎(北大:基礎水理部会員), 井上(寒地土研:基礎水理部会)
清水(北大), 久加(北大), 竹林(京大), 大槻(土研)

参加者 45名

内容 初級者向けのiRIC講習会

2. 土研新技術ショーケース2019 in 東京

開催日 2019年9月26日 場所 一橋講堂

主催 土木研究所

後援 国土交通省, 建設コンサルタント協会, 日本建設業連合会,
全国建設業協会, 全国測量設計業協会連合会, 土木学会

講師 井上(寒地土研:基礎水理部会), 林田(土研)

参加者 200名

内容 iRICを用いた3D浸水ハーザードマップ作成技術の紹介,
iRIC - EvaTRiP & RiTERの紹介

3. iRIC講習会 in ハノイ

開催日 2019年10月8日～9日 場所 トゥロイ大学

主催 iRIC研究会

講師 岩崎(北大:基礎水理部会員), 清水(北大), 竹林(京大), Jon Nelson (USGS)

参加者 20名

内容 iRICの基礎的な動作と計算の練習

構成

- 部会長 渡邊明英(東京建設コンサルタント)
副部会長 諏訪義雄(国土政策総合研究所)
同 田村浩敏(建設技術研究所)
同 内田龍彦(広島大学大学院)
部会員 総計 33名 / 事務局 3名

R1年度の主な活動

- 2019年度第二回河川部会(2/21:アブストラクト査読, 論文賞選定)
 - 2019年度第三回河川部会(4/24:本論文査読, 編集委員会etc.)
 - 河川技術シンポジウム(6/11-6/12)
<http://committees.jsce.or.jp/hydraulic01/activities>
 - 2020年度第一回河川部会 (9/24:2019年度シンポジウム総括及び2020年度シンポジウムの企画案等について, 11/5臨時)
- その他(地盤工学委員会堤防研究小委員会「堤防技術シンポジウム」後援)

河川部会員名簿

No.		氏名	分類
1	部会長	渡邊 明英	民
2	副部会長	諏訪 義雄	官
3	副部会長	田村 浩敏	民
4	副部会長	内田 龍彦	学
5	委員	田中 敬也	官
6		石塚 正秀	学
7		陰山 建太郎	民
8		大澤 範一	民
9		舟橋 弥生	官
10		尾花 まき子	学
11		川池 健司	学
12		金澤 裕勝	官
13		呉 修一	学
14		矢崎 剛吉	官
15		平山 大輔	官
16		太田 一行	民
17		黒澤 祥一	民

No.		氏名	分類
18		新清 晃	民
19		筋野 晃司	官
20		目黒 嗣樹	官
21		田端 幸輔	学
22		知花 武佳	学
23		椿 涼太	学
24		仲吉 信人	学
25		福島 雅紀	官
26		岡安 徹也	官
27		宮本 健也	官
28		堀江 克也	民
29		桑原 正人	民
30		本田 隆英	民
31		松本 健作	学
32		溝口 敦子	学
33		原田 守啓	学

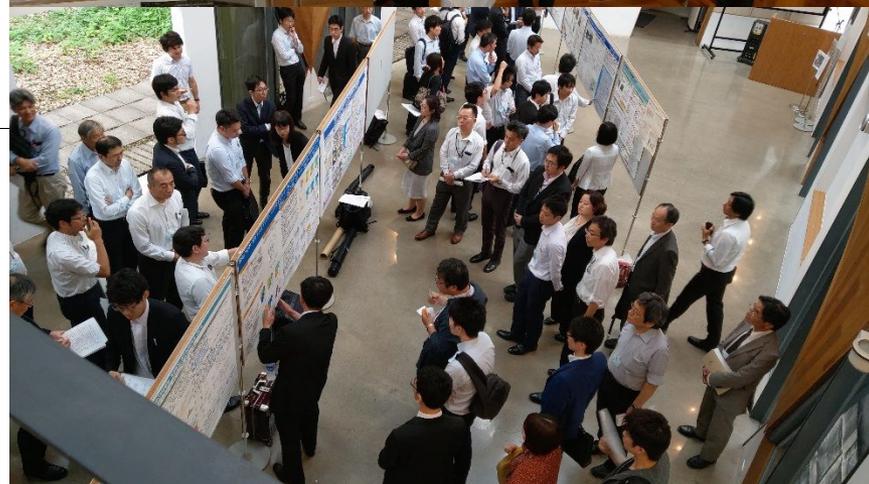
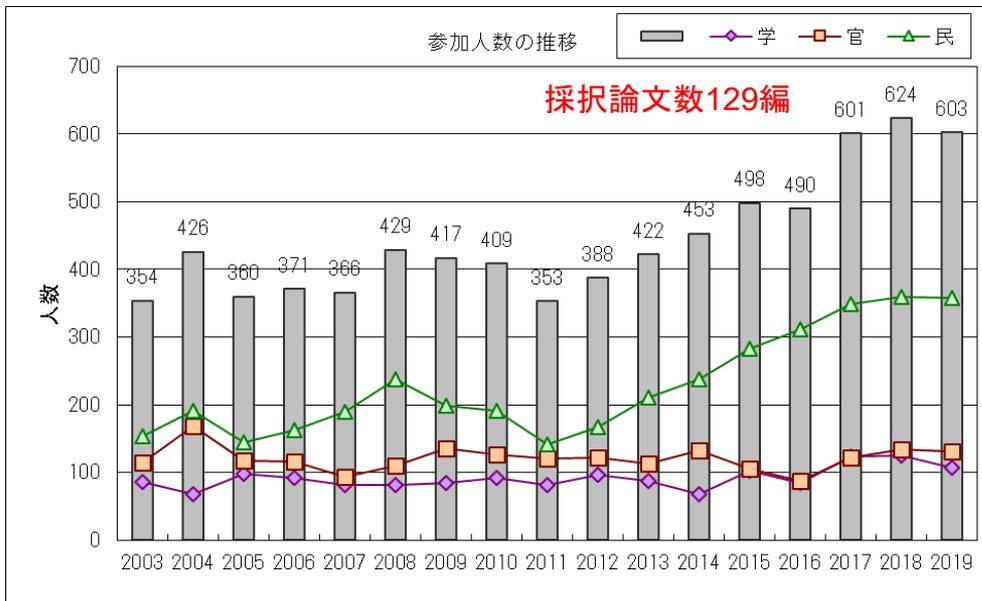
民:10名 学:12名 官:11名 (合計33名)

(2019年度 河川技術論文集 外部編集委員
地盤工学委員会 堤防小委員会より 9名)

2019年度 河川技術に関するシンポジウム

(1)日 時: 2019年6月12日(水), 13日(木)

(2)会 場: 東京大学農学部弥生講堂・アネックスセイホクギャラリー



河川技術論文集24巻(2018年度)の 河川技術論文賞

山田朋人・星野剛・舛屋繁和・植村郁彦・吉田隆年・大村
宣明・山本太郎・千葉学・戸村翔・時岡真治・佐々木博文・
濱田悠貴・中津川誠

「北海道における気候変動に伴う洪水リスクの変化」

(第25巻2019年度論文賞は選定作業中)

「2019年度・河川技術に関するシンポジウム ―新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術に関するシンポジウム」の開催と「河川技術論文集第25巻」の発行

シンポジウムは2019年6月12日・13日、東京大学農学部弥生講堂で開催されました。---名の方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

●報告：オーガナイズドセッション(OS)

- OS1：「河川管理や河川計画のための水文・河川・海岸分野の境界領域に関する河川技術」
- OS2：「大規模洪水時の水理現象把握と今後の研究の方向性」

●報告：オーガナイズドポスターセッション (OPS)

- OPS1：「堤防の浸透破壊現象解明、危険箇所予測技術に果たす現地調査、現地観測の役割」
- OPS2：「河川技術分野における数値解析の役割と今後の展望」(アンケート結果)

●講演資料

■招待講演資料

- ・OS1：山地流域における土砂水理現象とこれらを解くための鍵 (土木研究所 ICHARM 江頭進治氏)

■話題提供資料

- ・OS1：土砂・洪水氾濫対策に向けた技術的な検討状況 (国土交通省 砂防部 砂防計画課 國友優氏)
気候変動に伴う洪水外力の変化 (北海道大学工学研究院 山田朋人氏)
- ・OS2：平成29年九州北部豪雨を外力とした赤谷川流域の地表面流と洪水氾濫流のダイナミック解析 (九州工業大学 重枝末玲氏)
狭窄部と盆地部が連続する千曲川における大規模洪水時の河道貯留・堤防破壊危険性の評価と今後の治水整備のあり方 (中央大学研究開発機構 田端幸輔氏)
堤防決壊の事例をもとに考察した背水区間の堤防の決壊現象について (寒地土木研究所 前田俊一氏)
近年の水害を踏まえた河川整備の方向性～堤防強化の観点から～
 - ・近年の水害を受けての行政的な課題 (国土交通省 高畑栄治氏)
 - ・減災のための河川技術 (国土技術政策総合研究所 福島雅紀氏)
- ・OPS1：北川現地調査関係 (国立研究開発法人土木研究所 石原雅規氏)
 - ・北川で繰返し発生した陥没を伴う噴砂の詳細メカニズム調査
 - ・北川における漏水の変遷と地形及び堤防構造等の関係
 - ・北川で繰返し発生した噴砂による堤内・裏法尻箇所のゆるみ調査
物理探査による堤防内部の浸潤過程の可視化 (応用地質株式会社 木佐貫寛氏)
平成27年9月関東・東北豪雨における鬼怒川上山川地区堤防と地下水動態について (国土交通省 青木裕氏)
旧河道の地下水分布と堤防周辺の基盤漏水発生箇所の関係 (株式会社キタック 佐藤豊氏)
- ・OPS2：改良された袋詰玉石工の洪水時の安定性評価技術の開発とこれを活用した袋詰玉石工の構造・配置の技術的検討 (中央大学研究開発機構 福田朝生氏)
二次元固定床模型実験及びそれを再現する数値解析モデルによる床止め工の圧力と流速等の考察 (長岡技術科学大学 楊宏選氏)
流体科学領域ダム洪水吐のゲートレス化に係わる放流特性の水理模型実験と三次元数値流体解析の比較検討 (電力中央研究所地球工学研究所 佐藤隆宏氏)
巨岩・巨石が点在する山地河川に対する平面二次元解析法の課題と新しい解析法の提案 (中央大学研究開発機構 竹村吉晴氏)

■討議資料

- ・OS1：主旨説明 (東京建設コンサルタント 渡邊明英氏)
- ・OS2：主旨説明 (建設技術研究所 田村浩敏氏)
- ・OPS1：主旨説明 (国土技術政策総合研究所 諏訪義雄氏)
- ・OPS2：主旨説明 (広島大学 内田龍彦氏)

シンポジウムにおける
○企画の立案
○運営・進行
○講演・議事のとりまとめ
資料・議事録の公開

2020年度 河川技術に関するシンポジウム

(1) 日 時: 2020年6月10日(水), 11日(木)

(2) 会 場: 東京大学農学部弥生講堂
アネックスセイホクギャラリー

- アブストラクト投稿: 1/24(金)17時 ✕ 切
- 本論文投稿 : 4/2 (木)17時 ✕ 切

詳細な会告は12月上旬HP上に公開

環境水理部会報告

構成

- 部会長 矢野真一郎(九州大)
 副部会長 竹林洋史(京都大)
 幹事 大槻順朗(土研自然共生センター)
 新谷哲也(首都大)
 部会員 29名 オブザーバー 20名



R1年度の主な活動

- 研究集会@岩木川(弘前) (幹事:梅田先生(東北大), 48名参加)
- 流砂・植生動的マネジメントWG(WGリーダー:竹林先生):河川における土砂動態と樹林化に関するメカニズムや管理方法について取り組む.
- 適応WG(WGリーダー:入江先生(阪大)):流域圏水環境に関連する適応策の検討や適応策・緩和策の水環境への影響評価などについて取り組む.
- 閉鎖性水域WG(WGリーダー:新谷先生):湖沼・ダム湖や閉鎖性海域における水質モデリングの高度化を目指す.

新体制(令和元年度～2年度)

部会長	矢野 真一郎	九州大学 大学院工学研究院環境社会部門
副部会長	竹林 洋史	京都大学 防災研究所流域災害研究センター
幹事	大槻 順朗	国立研究開発法人 土木研究所水環境研究グループ 自然共生研究センター
幹事	新谷 哲也	首都大学東京 都市環境学部都市環境学科
委員	田代 喬	名古屋大学 減災連携研究センター ライフライン地盤防災産学協同研究部門
委員	赤松 良久	山口大学 工学部社会建設工学科
委員	石塚 正秀	香川大学 工学部 安全システム建設工学科
委員	梅田 信	東北大学大学院工学研究科
委員	大石 哲也	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地河川チーム
委員	川村(山口) 里実	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地河川チーム
委員	工藤 健太郎	いであ株式会社 国土環境研究所 水環境解析部
委員	斎田 倫範	鹿児島大学 工学部海洋土木工学科
委員	櫻井 寿之	一般財団法人ダム技術センター
委員	重枝 未玲	九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系
委員	鈴木 伴征	八千代エンジニアリング(株) 本店水工部技術第一課
委員	田井 明	九州大学 大学院工学研究院環境社会部門
委員	都築 隆禎	公益財団法人 リバーフロント研究所自然環境グループ
委員	鶴田 泰士	(株)建設技術研究所 東京本社河川部
委員	中山 恵介	神戸大学大学院市民工学専攻環境共生工学講座水圏環境工学分野
委員	細川 真也	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域海 洋環境情報研究チーム
委員	横山 勝英	首都大学東京 都市環境学部 都市基盤環境コース
委員	吉川 泰弘	北見工業大学 社会環境工学科
委員	乾 隆帝	福岡工業大学社会環境学部社会環境学科
委員	入江 政安	大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻
委員	片岡 智哉	東京理科大学 理工学部 土木工学科
委員	東 博紀	国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター
委員	清水 隆博	日本工営株式会社 流域・都市事業部 河川・水工部
委員	牧野 育代	東北大学 環境・安全推進センター環境マネジメント推進室
委員	中西 哲	国立研究開発法人土木研究所 水工研究グループ 水理チーム

計29名

赤字:新規委員.

新体制(令和元年度～2年度)

オブザーバー	赤堀 良介	愛知工業大学 工学部土木工学科
オブザーバー	大久保 卓也	滋賀県立大学 環境科学部 生物資源管理学科
オブザーバー	小林 草平	京都大学防災研究所 水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域
オブザーバー	井芹 寧	温州大学
オブザーバー	角 哲也	京都大学 防災研究所水資源・環境研究センター
オブザーバー	二瓶 泰雄	東京理科大学 理工学部土木工学科
オブザーバー	宮本 仁志	芝浦工業大学 工学部 土木工学科
オブザーバー	矢島 啓	島根大学 エスチュアリー研究センター
オブザーバー	井上 徹教	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域 海洋環境情報研究チーム
オブザーバー	今村 正裕	(一財)電力中央研究所 環境科学研究所 水域環境領域
オブザーバー	土屋 十圀	中央大学理工学研究所
オブザーバー	大橋 伸之	日本工営株式会社
オブザーバー	鶴田 舞	国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究G 河川生態チーム
オブザーバー	中山 忠暢	国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター
オブザーバー	長尾 正之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質情報研究部門
オブザーバー	鈴木 準平	(一財)電力中央研究所 我孫子研究所環境科学研究所水域環境領域
オブザーバー	三輪 浩	鳥取大学工学研究科 社会基盤工学専攻 土木工学講座
オブザーバー	古里 英一	鹿児島大学総合科学域総合研究学系
オブザーバー	巖島 怜	東京工業大学環境社会理工学院
オブザーバー	松尾 克美	中電技術コンサルタント(株) 環境部

計20名

赤字:新規オブザーバー.

2019年度環境水理部会研究集会 開催報告

環境水理部会

担当: 梅田(東北大)
大槻(土研)

日時: 2019年6月20日(木) -22日(土)
 内容: ①見学会その1(十三湖~岩木川
 中下流)②研究発表会(いわき荘)③見
 学会その2(津軽ダム)
 参加者: ①39名, ②46名, ③19名

決算報告:

収入		単価	個数	小計
見学会その1	参加費(一般・学生)	¥4,000	32	¥128,000
研究発表会	参加費(一般)	¥1,000	34	¥34,000
	参加費(学生)	¥0	14	¥0
				¥162,000

支出		単価	個数	小計
見学会その1	貸切バス(弘南バス株式 会社)	¥97,950	1	¥97,950
学会	管理費A(収入の 30%)	¥48,600	1	¥48,600
	雑費(振込手数料)	¥432	1	¥432

¥146,982

※会場費(¥27000)を環境水理部会予算よ
り支出

収支	¥15,018
----	---------

➡ 残額は学会
予算へ



十三湖



特別講演・東先生(弘前大)



研究発表会



特別講演・大高先生(弘前大)



岩木山をバックに



津軽ダム

流砂・植生動的マネジメントWG

WG主査 竹林洋史(京都大学)

2018年度活動報告

・ 四万十川・仁淀川見学

2019年2月27日 仁淀川下流

治水及びハビタット形成を考慮した河道掘削箇所
の視察

2019年2月28日 四万十川下流

入田箇所アユの瀬づくり、山路箇所スジアオノリ
の再生

2019年度活動計画

- ・ 現地見学
- ・ 実現可能性の高い植生管理方法に関するワークショップ



温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG [適応WG]

活動報告

設置目的

流域圏の水環境に関連する適応策の検討や適応策(緩和策も含む)を適用した場合の水環境への影響評価などに関して、情報共有、課題抽出、研究プロジェクトの立ち上げなどを目的として活動する。

メンバー

宮本(芝工大), 矢島(島根大), 矢野(九大), 赤松(山口大), 石塚(香川大), 井芹(西技), 梅田(東北大), 工藤(いであ), 白水(山口大), 新谷(首都大), 田井(九大), 津田(水資源機構), 中西(土研), 中山(神戸大), 鈴木(八千代), 田代(名大), **入江(阪大・主査)**

部会外 上原(バシコン), 對馬(土研), 渡部(東大)

活動計画

- ・ 11/3 WGの開催 d4PDFの活用について (東大渡部先生, 九大田井先生)
- ・ 科研費その他の申請を通じたプロジェクトの計画立案
- ・ WG打ち合わせ (学会・研究集会に合わせて年2回程度)

閉鎖性水域WG

活動報告(主査:首都大学東京 新谷)

ミッション

研究会やサブWGを通じて閉鎖性水域に関する研究分野の活性化とレベルアップを図るとともに、数値モデルや観測手法の情報共有・公開を行う。

メンバー

現在部会員で関連研究を行っている方だけでなく、これから閉鎖性水域の研究を行いたい方々にも入っていただく(随時募集中)。

活動案

- ・閉鎖性水域に係る研究(水工学論文集)のレビュー
- ・国内湖沼・貯水池の広域的・長期的な水温分布調査
- ・研究会・見学会(年1回)
- ・WG打ち合わせ(学会・研究集会に合わせて年2回程度)

水害対策小委員会報告

構成

小委員長	田中茂信(京都大)
幹事長	赤松良久(山口大)
委員	20名
アドバイザー	9名
オブザーバー	11名



2018年11月河川災害シンポジウム@北海道大学

R1年度の主な活動

- 2019年8月「佐賀豪雨災害調査団」の結成・活動サポート
- 2019年10月「令和元年台風19号豪雨災害調査団」の結成・活動サポート
- 2019年11月河川災害シンポジウムの実施
- 消防連携WG(WGリーダー:京都大・竹林):消防と連携した救助技術の高度化等検討
- 災害調査データベースWG(WGリーダー:山口大・赤松):災害調査の写真等のデータベースの作成

水害対策小委員会

水工学委員会における水害調査活動の円滑化および水害研究の更なる発展のための活動を行う小委員会

【活動内容】

- ・水害発生時に、水工学委員会が速やかに調査団を組織するためのサポート、調査団員公募のサポート、調査費獲得のためのサポート等をする。
- ・水害発生時に、他部門及び他学会との合同調査団の結成や河川管理者（行政機関）との窓口となる。
- ・水害発生時の水工学委員会としての対応・調査マニュアルを作成する。
- ・自然災害研究協議会と協力し、河川災害シンポジウムを企画・運営する。
- ・消防及びレスキューと情報交換を行い、水工学知見に基づいたレスキューマニュアルの改善やレスキュー技術の向上に努める。
- ・国土交通省及び地方自治体の水害対策部署と情報交換及び勉強会を行い、水防技術の向上に努める。
- ・水工学委員会に講演依頼がある水害に関する講演及び教育活動の窓口となる

2019年 度委員会 メンバー

委員		
<ul style="list-style-type: none"> ・小委員会委員長 ・幹事(各支部から1名) (幹事長兼務) ・国土交通省本省 ・国土交通省テックフォース ・国の研究所 ・コンサルタント ・財団 ・前水工学委員会委員長 ・監事 ・監事 	田中茂信 川村里実 川越清樹 二瓶泰雄 田代 喬 佐山 敬洋 岡田将治 赤松良久 矢野真一郎 吉田 邦伸 豊口佳之 宮本守 佐々木隆 高西 春二 中村謙一 中村明彦 徳永良雄 清水 康行 堀智晴 竹林洋史	京都大学 寒地土木研究所 福島大学 東京理科大学 名古屋大学 京都大学 高知工業高等専門学校 山口大学 九州大学 国交省 水管理・国土保全局防災課災害対策室長 国交省 水管理・国土保全局 防災課 災害対策室長 ICHARM 国総研 河川研究部 河川構造物管理研究官 パシフィックコンサルタンツ 建設技術研究所 アジア航測株式会社 一般社団法人 国際建設技術協会 北海道大学 京都大学 京都大学
アドバイザー		
<ul style="list-style-type: none"> ・各支部調査団組織責任者 (各支部から1名) 	泉典洋 田中仁 清水義彦 富永晃宏 藤田一郎 中野晋 前野詩朗 秋山壽一郎 風間聡	北海道大学 東北大学 群馬大学 名古屋工業大学 神戸大学 徳島大学 岡山大学 九州工業大学 東北大学
オブザーバー		
<ul style="list-style-type: none"> ・消防 ・レスキュー ・コンサルタント ・その他の災害・防災関連組織 	上村昇 木下修 佐藤孝洋 菊地博文 本橋健 眞間修一 富田邦裕 松田寛志 野田敦夫 大石哲 神谷大介	消防庁国民保護・防災部 東京消防庁警防部特殊災害課 スペシャルレスキューサービズジャパン(株) (株)ドーコン 日水コン 八千代エンジニアリング (株)建設環境研究所 日本工営株式会社 株式会社パスコ 神戸大学都市安全研究センター 琉球大学島嶼防災研究センター

2019年度の活動

- 2019年7月： 2019年度第一回水害対策小委員会開催
- 2019年8月： 2019年8月佐賀豪雨災害調査団の結成・活動のサポート
- 2019年10月： 2019年10月令和元年台風19号豪雨災害調査団の結成・活動のサポート
- 2019年11月： 2019年度第二回水害対策小委員会開催
河川災害シンポジウムの実施(大宮ソニックシティ)

参考：2018年度(北海道大学)214名

2017年度(岡山大学) 151名

配付資料に対して自然災害研究協議会から全額補助

2020年度の活動予定

- ・ 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- ・ 水害対策小委員会HPの充実
- ・ 消防連携WG
- ・ 災害写真データベースWG

2020年6月： 2020年度第一回小委員会開催

2020年11月： 河川災害に関するシンポジウムの実施
2020年度第二回小委員会開催

構成

小委員長 椿涼太(名古屋大)
幹事 清水武志(土木研究所)
委員 3名
オブザーバー 1名
アドバイザー 1名



R1年度の主な活動

- 勉強会@名古屋 2019/7(幹事:椿, 76名参加)
- 小委員会HP立ち上げ 2019/9
- 勉強会@札幌 2019/12ごろ(幹事:萬矢)予定
- 合同観測@新潟 2020/4: 様々な流量観測技術を用いて
同一イベントの計測を行う予定
- 合同観測@北海道 2020/5: 融雪洪水を対象に土砂移動を中心と
した連携観測を行う予定

グローバル適応研究小委員会報告

構成

委員長 中山恵介(神戸大学)
 幹事長 小林健一郎(神戸大学)
 顧問 中北英一(京都大学)
 顧問 矢野真一郎(九州大学)
 幹事 10名
 委員 18名
 オブザーバー 2名

R1年度の主な活動

- 矢野先生が委員長を務められた前体制において、シンポジウム「温暖化により激甚化する水災害に対抗するための適応策研究の推進に向けて」を2019年4月13日に京都大学防災研究所きほだホールにて開催した。
- 2019年度水工学講演会での幹事会が、新体制での最初の活動となります。



河道管理研究小委員会報告

構成

委員長 田中規夫(埼玉大)、幹事長 戸田祐嗣(名古屋大)
委員 20名

R1年度の主な活動

- (第1回委員会(3/15) 委員会の設置趣旨、2019年度活動方針)
 - 第2回委員会(6/11) 勉強会(1)
河道管理上の課題に関する情報提供(服部敦、福島雅紀)、
ショートレビュー(土砂:溝口敦子、後藤岳久)、(植生:宮本仁志)、
(環境:原田守啓)、(新技術:秋田麗子, 岡村誠司, 塚本洋祐)
 - 第3回委員会(9/18) 勉強会(2)
河川管理者の視点から見た河道管理の現状と課題(青野正志)、
砂州研究に関する話題提供(竹林洋史)、植生を含めた河道の解析
技術に関する話題提供(重枝未玲)
- ※年度内にあと1回の勉強会とWS(1/14@土木学会)開催を予定。

CommonMP開発・コンソーシアム

構成

委員長 山田正(中央大)
幹事長 風間聡(東北大)
技術部会長 立川康人(京都大)

母体:国土交通省 都市・地域整備局下水道部, 水土・保全局,
国総研, 土木学会, 建コン協, 上下水コン協



R1年度の主な活動

- 2019年4月3日 2019年度 第1回技術部会
- 2019年6月27日 2019年度 第2回技術部会
- 2019年7月4日 第10回CommonMP推進委員会・第20回幹事会
(合同開催):年間活動計画・方針の決定
- 11月18~22日 CommonMP研修会 国土交通大学校
- 2019年度中 第3,4回技術部会 第11回推進委員会
河川計画研修会(1月), 地整研修会(随時)

目的: 河川は、治水・利水・環境といった多様な側面で地域と密接な関わりを持っており、そこに生じる諸課題には、水工学と土木計画学とが連携をして取り組むべき課題が多く存在します。本小委員会は、河川をキーワードに、流域管理と地域計画の連携の視点から取り組むべき研究について幅広く議論を展開し、連携研究の活性化、新たな研究テーマの発掘を目指します。

本小委員会は、水工学と土木計画学に携わる研究者および都市と河川行政関係者が今後の流域管理と地域計画の具体的な連携方策について議論し、国土交通省水管理・国土保全局の河川砂防技術研究開発制度等と連携して特定課題について共同研究等を実施することにより、流域管理と都市・地域計画の相互連携による総合的な街づくりの実現を目指します。

メンバー: 奥村 誠(東北大)、谷口 守(筑波大)、戸田圭一(京大)、古米弘明(東大)、市川 温(京大)、尾崎 平(関大)、清水義彦(群馬大)、多々納裕一(京大)、**立川康人(委員長、京大)**、田中尚人(幹事、熊大)、田中規夫(埼玉大)、塚井誠人(広島大)、横松宗太(京大)

第7回 流域管理と地域計画の連携に関するワークショップ

日時: 令和元年 12月11日(水) 14:00~17:30

場所: 土木学会講堂

内容: **洪水災害多発時代におけるまちづくりを考える**

構成

懇談会長 道奥康治(法政大)

部会員 12名

(うち5名が国交省河川技術評価委員を兼任)

R1年度の主な活動

- これまで懇談会プロパーの会合が実施されることはなかったが、河川技術評価委員会の組織改正を機会に、R1年度中に水工学委員会と国土交通省との連携体制を再構成する。
- 懇談会の内規整備や活動方針を協議する予定。

令和元年度第2回海岸工学委員会報告

資料3-12

10月23日18:00～20:30 かごしま県民交流センター

■ 議事録確認

■ 第66回（本年度）海岸工学講演会

日程：2019/10/23（水）～25（金）

会場：かごしま県民交流センター（鹿児島市）

321件の投稿→234件の特別号論文+1件の通常号論文+22件のCoastal Engineering Journal（投稿済or採択済）の発表

CEJ投稿+講演会発表の仕組み

①前年度4月1日以降にCEJに投稿済み（査読中も可）→アブスト査読通過で発表可

②通常通りアブスト投稿→査読通過後、特別号の修正原稿の提出締切日までにCEJに投稿→発表可（22件中10件がEiCにより返却）

■ Coastal Engineering Journal

IF:2.016

Taylor & Francis社に出版社を変更してから投稿数増加 38編 80万円ほどの収入

■ 海岸工学委員会ロゴの制定

■ 第67回（次年度）海岸工学講演会

日程：2020/11/11（水）～13（金）

会場：じゅうろくプラザ，岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜市）

■ 第68回（次々年度）海岸工学講演会

日程：2021/11/9（火）～12（金）

（1週うしろにずれる可能性あり）

会場：京都市 APAC2021を同時開催

■ 第55回（名工大）・第56回（高知）水工学に関する夏期研修会

■ 研究小委員会等の活動について

■ 講演会投稿数増加に向けての取り組み

- ・30代前半 40代前半の投稿が大幅減少
 - ・（現状）CEJに第2段階査読め切までに投稿する論文の発表を認める
- CEJに投稿するかCEJ以外のSCIジャーナルに採択されている論文の発表も認める。
- +CEJのスクリーニングで返却された論文は特集号への再投稿を認めることも検討する。

2019の会議前なので3件について報告する

I IAPD-IAHRの動向

1) 22nd IAHR-APD Congress (2020, Sapporo, Japan)の準備状況

・北大・清水実行委員長による資料説明(内容: アブスト×切の延長、テーマ、レジストレーションの料金設定など)

2) 23rd IAHR-APD Congress (2022, インド)の準備状況

3) JHER: Prof. Sung-Uk Choi, co-editor-in-chief of JHER: スペシャルイシューの進捗状況、過去数年におけるIF、採択率などを説明した.

4) Distinguished member Award

5) IAHR-APDの実行委員(2021-22)の選挙

II 今後のIAHR会議予定

2021/7/4-9 第39回IAHR スペイン Granada

2023/8/21-25 第40回IAHR オーストリア ウィーン

III 水遺産スペシャルセッションとAwardについて

・2016年APD会議で、Prof. Hyoseop Woo, APD Chair, が「Historical Water Projects and Traditional Water Technologies in the Asia-Pacific Region」の重要性を強調。

・Awardもその時から次始まったが、インドネシア大会では表彰はなかった

◎推薦に向けた動き(2018以降)

・IAHR日本支部 理事、監事、顧問の方とWGを立ち上げることで了承を得た(2019/8/22-26)

・WGメンバー推薦(2019/8/26)

1)アジア水遺産セッションに投稿された過去の関係者

2)今後の関係者&LOC: 北海道(推薦候補があれば)

※推薦がなくてもLOC代表として種々の調整が必要

3)日本支部: 支部長、副支部長&(前)幹事長、幹事長

※過去の経緯を含めた議論

4)APD-IAHR委員(&日本支部)

※この件に関する調整役

◎WGとしての推薦案(2019/10/17)

◎WGからIAHR日本支部 理事、監事、顧問への推薦(2019/10/21)

推薦案

3案は、日本における古代、近世、近代という三つの異なる年

代の技術を背景とする水遺産であり、優劣は付け難く、3件とも現在も実際に活

用されている施設であることから、3施設を提案する

古代:角先生より提案のあった「狭山池」

近世:玉井先生より提案のあった「辰巳用水」

近代:北海道グループより提案のあった「石狩川流域における入植初期の治水・利水施設群」

IAHR日本支部会議(2019/11/4)で提案予定

なお、複数提案することの是非に関しては、Gregory会長にはパナマ会議の時に話をしてある(アジア水遺産に関する関心を高めるためにも、複数案があってよいという判断があった)

2019.11.1 奥村/佐藤

土木学会論文集の今後の方向性の提案

1. 問題認識

- 1) 教員採用時の Citation 重視の流れを考えれば、土木学会論文集の掲載論文が citation のカウント対象となる（以下 Index 化と呼ぶ）ことは、投稿を確保する上で必須である。
- 2) 土木学会を代表するジャーナルとして、学术界と実務者をつなぐ役割は今後も重要であり、細かな表現や実務家にとっての読みやすさを考えると、和文論文集は重要である。
- 3) 英文論文集(Journal of J.SCE)の Index 採録申請の過程で、和文論文集でも、書誌情報と Abstract, 参考文献が英語対応していれば、Index 化の可能性があることが判明した。(注)
- 4) ただし、Index 化申請手続は煩雑であり、できれば一括で進めるのが効率的である。
- 5) 現在の論文集は、多分野に渡っており、土木史や現場技術を扱う分野など、資料や参考文献を英文化することが困難な分野も存在している。
- 6) 分冊の特集号の中には、総ページ数に制約をかけているため、参考文献を日英併記することが困難であるなど、Index 化が困難なものも存在する。

2. 現状の編集体制の認識

- 1) 現在の分冊小委員会による査読、編集体制は十分機能しており、査読・編集体制を変更する必要性は見あたらない。
- 2) 将来的には、特集号の編集委員会との一体化を進めることにより、査読者の負担集中の回避、掲載レベル感の統一が進むことが期待できる。

3. 基本方針（案）

- 1) 土木学会論文集という看板の下に、A) 英文論文集(Journal of JSCE)、B) Index 化を目指す和文論文集をおく。さらに希望があれば、C) Index 化を前提としない和文論文集の3つのカテゴリーをおく。
- 2) A),B)の論文集は、査読・編集体制は現状の英文論文集と同様とする。つまり、査読は投稿者の投稿区分に合わせた分冊委員会で行うが、掲載時には1つの雑誌とする。
- 3) B)の Index 化は、1つの雑誌として申請を行う。ただし、読者の便を考え、J-Stage 上はサブカテゴリーごとに掲載する（機械学会論文集参照）。
- 4) Index 化になじまない論文の掲載先として、C) の論文集を創刊する。名称は例えば、土木学会論文集（専門）Focused Journal of JSCE、土木学会論文集（和文）Japanese J.JSCE とする。現在の分冊ごとに刊行するか、1つの雑誌とするが J-Stage 上ではサブカテゴリーごとに掲載する。
- 5) 現在の特集号を A),B)のどちらに入れるかについて、各特集号の意思決定を求める。
- 6) 可能であれば英文論文集の名称を International Journal of JSCE に変更する。

参考：日本機械学会論文集

分冊の形をとっておらず、ページ番号はカテゴリーと関係ない順序で年次ごとに連番が付されている。J—Stage 上では、前身分冊の区分（「A 材料力学，機械材料，材料加工」、「B 流体力学，流体機械」、「C 機械力学，計測，自動制御，ロボティクス，メカトロニクス」など）に分けて配列されている。

— 機関誌：日本機械学会	
材料力学，機械材料，材料加工	
85 巻 (2019) -	
877 号 p. 18-00297-	
876 号 p. 18-00254-	
875 号 p. 18-00355-	
874 号 p. 18-00230-	
873 号 p. 18-00074-	
872 号 p. 18-00122-	
871 号 p. 18-00098-	
870 号 p. 18-00222-	
869 号 p. 18-00195-	
84 巻 (2018) +	
83 巻 (2017) +	
82 巻 (2016) +	
81 巻 (2015) +	
80 巻 (2014) +	
前身誌 +	
	2軸ひずみ計測用半導体センサの開発 島津 ひろみ, 太田 裕之, 丹野 洋平 2019 年 85 巻 877 号 p. 19-00023 発行日: 2019年 公開日: 2019/09/25 [早期公開] 公開日: 2019/08/21 DOI https://doi.org/10.1299/transjsme.19-00023 ジャーナル フリー 抄録を表示する PDF形式でダウンロード (1702K)
	衝撃力と慣性力が作用する一端回転支持はりの曲げ変形モデルによる木製硬式野球バットの打撃変形解析 加藤 博之, 川上 順悟 2019 年 85 巻 877 号 p. 19-00169 発行日: 2019年 公開日: 2019/09/25 [早期公開] 公開日: 2019/09/10 DOI https://doi.org/10.1299/transjsme.19-00169 ジャーナル フリー 抄録を表示する PDF形式でダウンロード (1711K)
	流体力学，流体機械
	ブラウン動力学法のキューブ状磁性粒子分散系への適用に関する検討 岡田 和也, 佐藤 明 2019 年 85 巻 877 号 p. 19-00236 発行日: 2019年 公開日: 2019/09/25 [早期公開] 公開日: 2019/09/05 DOI https://doi.org/10.1299/transjsme.19-00236 ジャーナル フリー 抄録を表示する PDF形式でダウンロード (2110K)
	機械力学，計測，自動制御，ロボティクス，メカトロニクス
	溶融ポリマーにおけるスティックスリップ・メルトフラクチャーの機構解明（高密度ポリエチレン溶融体の不安定流動についての実験的解析） 山本 政夫 2019 年 85 巻 877 号 p. 18-00297 発行日: 2019年 公開日: 2019/09/25 [早期公開] 公開日: 2019/09/05 DOI https://doi.org/10.1299/transjsme.18-00297 ジャーナル フリー 抄録を表示する PDF形式でダウンロード (2110K)

(注) Index 化における論文の英文情報の範囲

Index 化では当該論文と引用論文の関連を英文で迎れることが必要条件であり、書誌情報（雑誌名、発行年、巻号、ページ、著者名、論文名）の英文は必須である。Abstract の英文は必須ではないものの、引用回数増加のために強く推奨される。

参考文献の英文情報は相互参照のためである。相互参照の対象となりうる引用文献と、その他の参考文献に分けてリスト化すれば、前者にのみ英文情報が付記されていれば良い。

2019年度(第55回)水工学に関する夏期研修会【報告】

資料4

主催：公益社団法人 土木学会（担当：海岸工学委員会，水工学委員会）
後援：土木学会中部支部
日程：2019年9月9日（月）～9月10日（火）の2日間（A，Bコース並行開催）
場所：名古屋工業大学
共通セッション：51号館5111号室
Aコース52号館5211号室 ・ Bコース：52号館5212号室
定員：Aコース150名，Bコース150名
受講料：1コースにつき，一般16,000円，学生・院生10,000円
申込方法：土木学会ホームページ，もしくはFAX（学会誌巻末に掲載される「本
部行事参加申込用紙」）の利用
申込締切日：2019年8月30日（金）【必着】

広報：
・学会誌イベント公告
・海岸工学委員会ホームページ・水工学委員会ホームページ
・cecom等メーリングリスト

参加者数（暫定）：Aコース：99名，Bコース：73名，合計172名

収支：大きな黒字・赤字なし

※講師に講演謝金15,000円，原稿料25,000円

Aコース：「気候変動適応に向けた水工学・防災技術」

9月9日(月)

開会挨拶【共】名古屋大学 水谷法美

1. 力学的ダウンスケーリングによる台風ハザードの気候変動影響評価【共】京都大学 竹見哲也
2. スーパー伊勢湾台風来襲に備えた危機管理行動計画策定に向けた取り組み【共】
中部地方整備局河川部 松尾 修
3. 粒子フィルタを用いた実時間洪水予測手法
京都大学 立川康人
4. 都市浸水に関する解析法とその活用
中部大学 武田 誠

9月10日(火)

5. 水災害に備える市街地のあり方【共】
東京大学 加藤孝明
6. 災害ごみの最新の知見とその対策【共】
名古屋大学 平山修久
7. 土砂・流木災害
立命館大学 里深好文
8. 2018年西日本豪雨による河川災害の概要と課題
岡山大学 前野詩朗

Bコース：伊勢湾台風60年：高潮・高波・沿岸防災の過去・現在そして将来

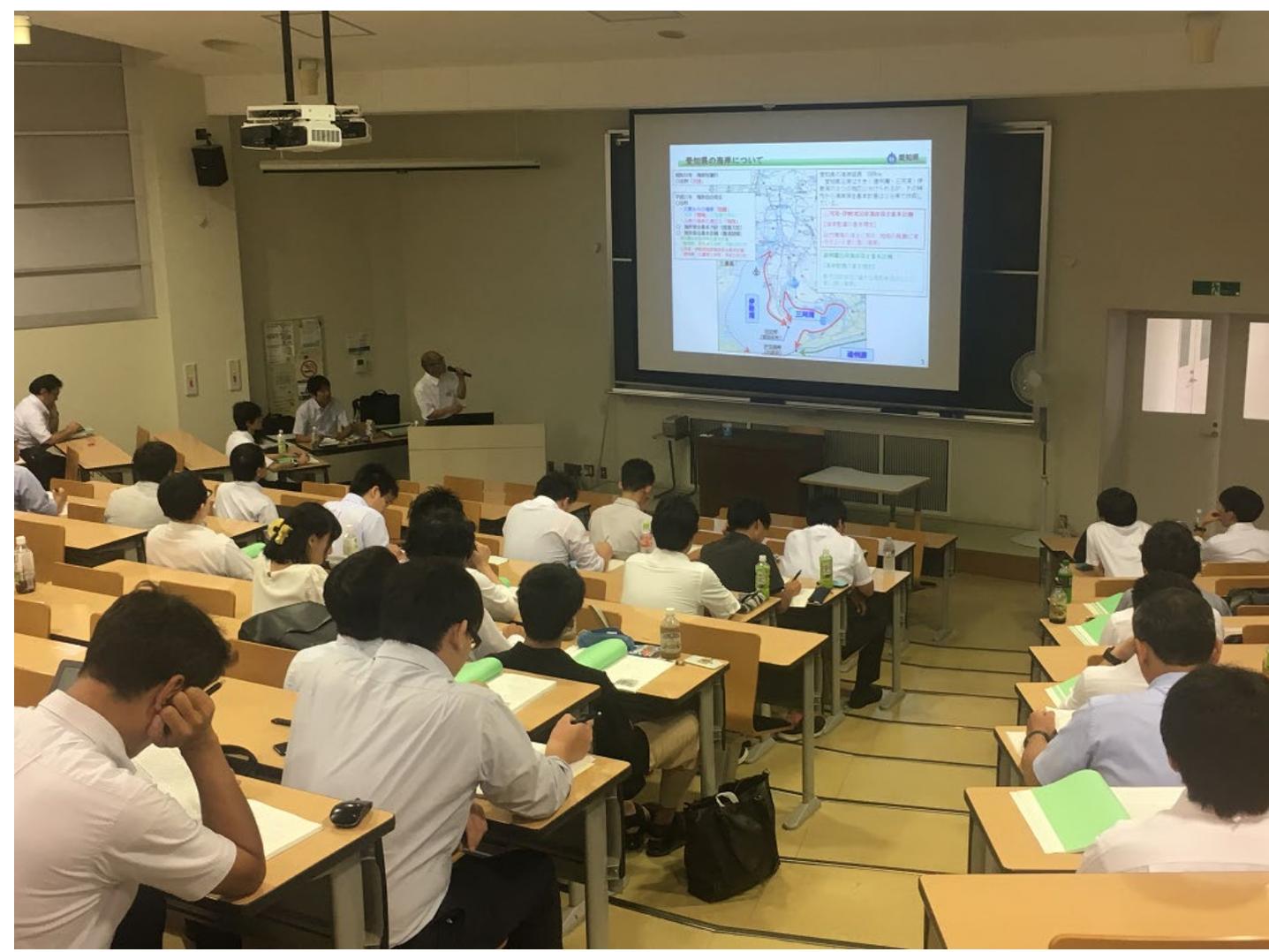
9月9日(月)

開会挨拶【共】名古屋大学 水谷法美

1. 力学的ダウンスケーリングによる台風ハザードの気候変動影響評価【共】京都大学 竹見哲也
2. スーパー伊勢湾台風来襲に備えた危機管理行動計画策定に向けた取り組み【共】
中部地方整備局河川部 松尾 修
3. 愛知県における高潮防災の取組み
愛知県建設局河川課 益田 俊
4. 高波及びうねりによる越波災害と技術的対応
港湾空港技術研究所 平山克也

9月10日(火)

5. 水災害に備える市街地のあり方【共】
東京大学 加藤孝明
6. 災害ごみの最新の知見とその対策【共】
名古屋大学 平山修久
7. 高潮数値モデルの開発と気候変動影響評価への適用
関西大学 安田誠宏
8. 伊勢湾台風とその後の防災
名古屋工業大学 喜岡 涉



左上：共通セッション

左下：Aコース

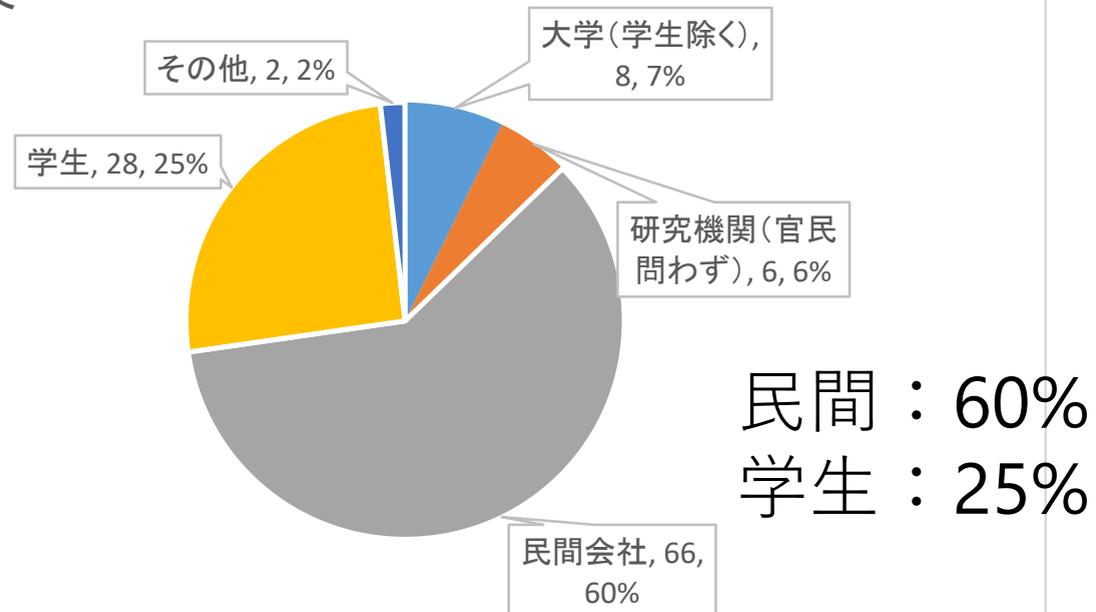
右上：Bコース

アンケートを実施

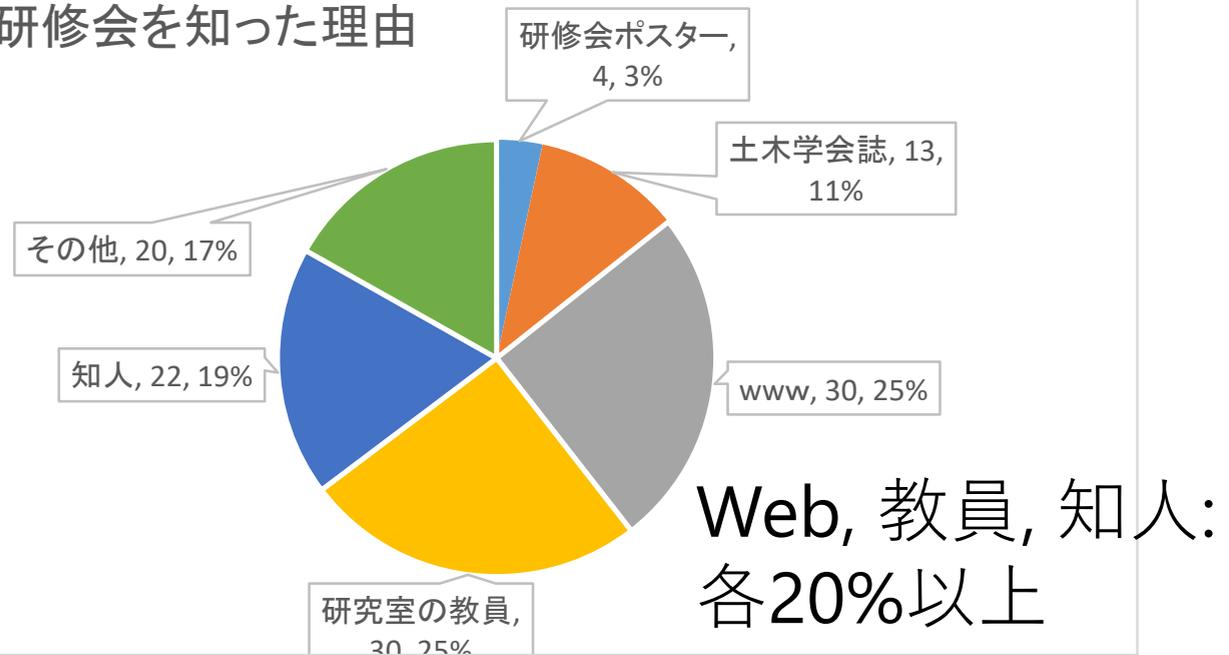
回答数：111

次頁以降に主な結果を示す。

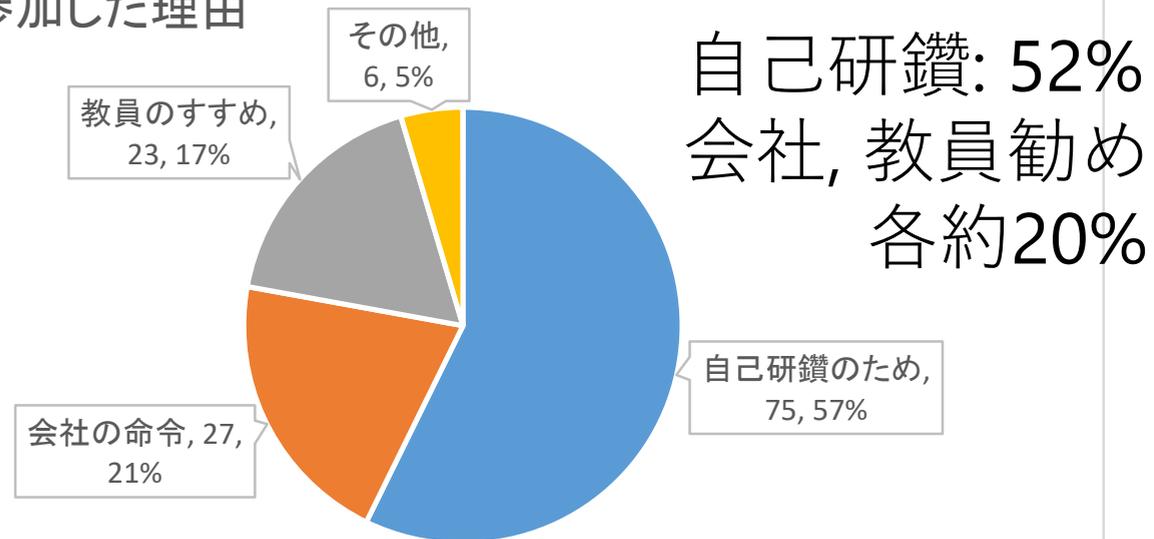
問1 職業



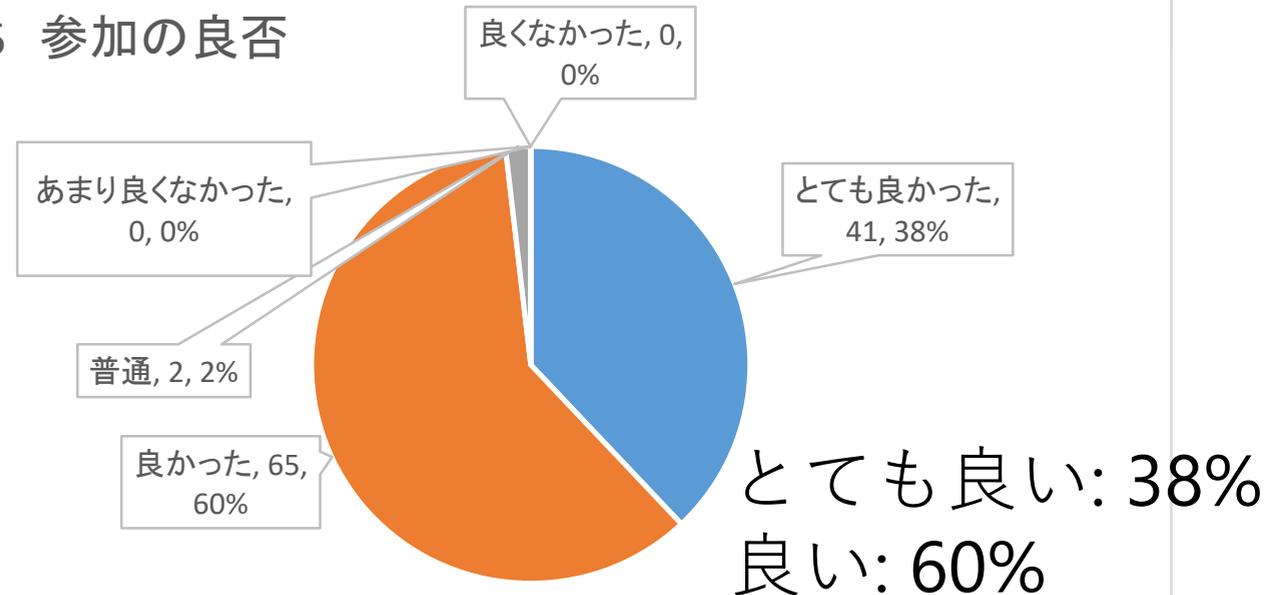
問3 研修会を知った理由



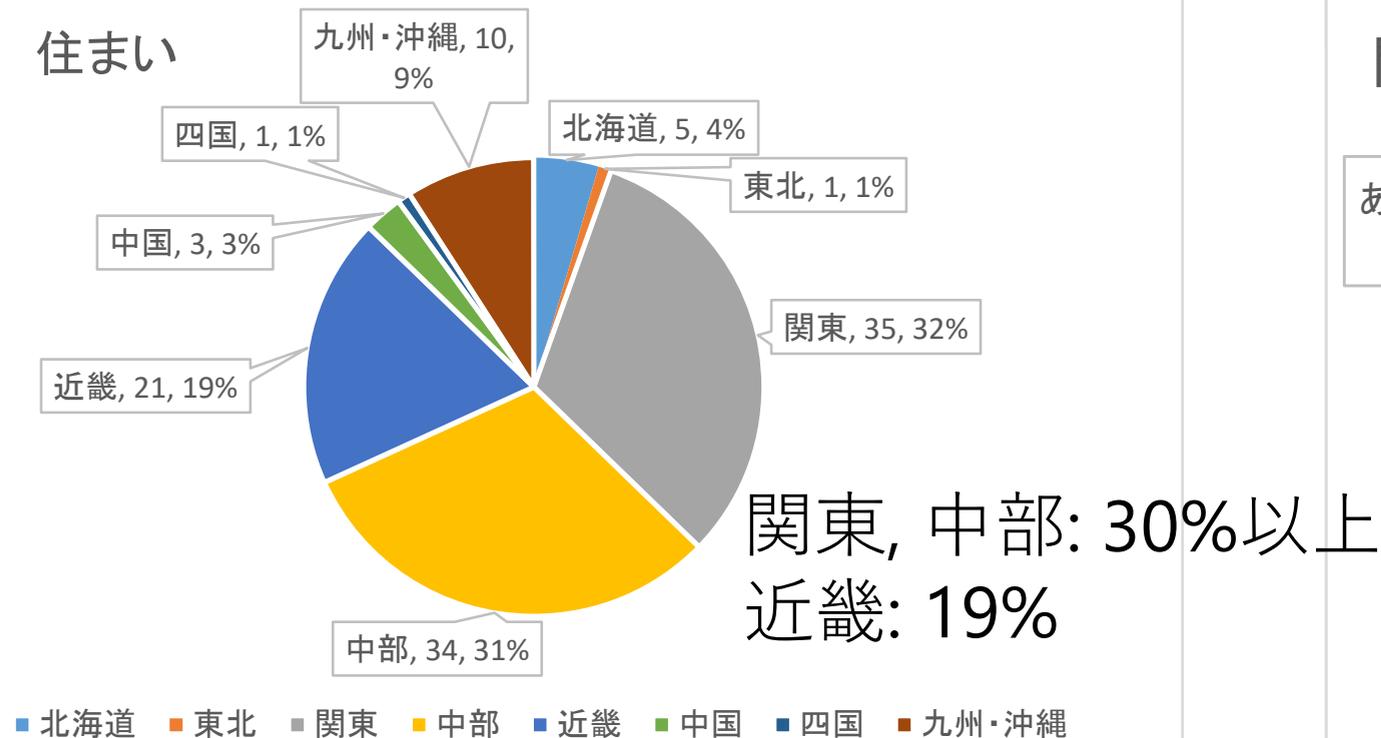
問4 参加した理由



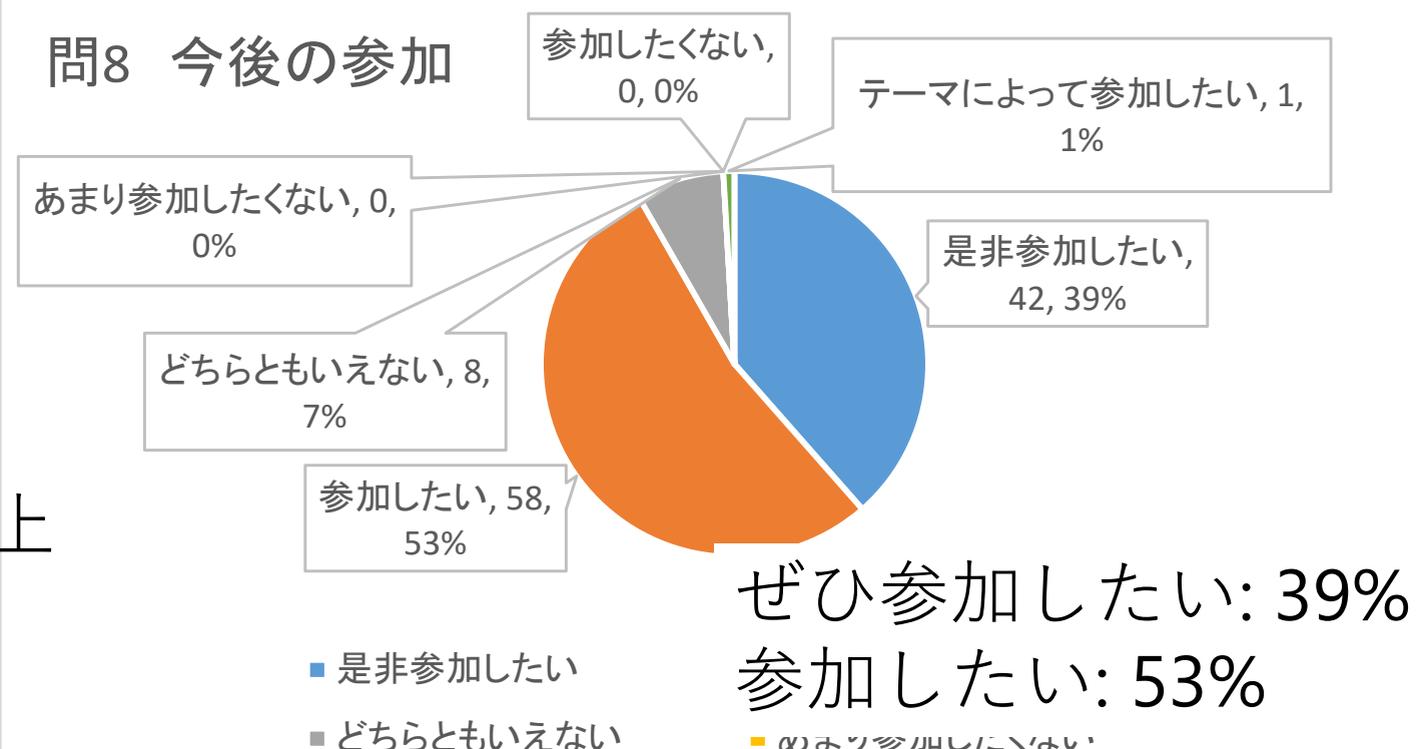
問5 参加の良否



問2 住まい



問8 今後の参加



改善点の自由記述

- 日程等：9月初め、少し長い(集中力がもたない)。昼休憩の時間がもう少し欲しい。
- プログラム構成：Large-Eddy simulation(LES)。地元の先生の講演が少ない。
- 参加費：少し高い
- 告知方法：CM
- 空調が効きすぎていた（合計5件）
- 講義集の図表を増やして欲しい。
- 駅から近いとありがたいです。
- テキストの事前配布（予習したい）。
- パワポの共有。
- 講義集の電子化。
- 台風への対応を告知して欲しかった。
- A・B両コースを1冊のテキストにまとめていただくと助かる。

日程・時間、プログラム構成、参加費: 各 17%

取り上げてほしいテーマ

- 巨大化する台風，気象災害
- データ同化手法
- 気候変動・不確実性
- 気象学
- 温暖化による豪雨の将来予測
- モニタリング手法、結果
- 波と流れを同時に計算した場合
- 高潮と構造物
- 数値シミュレーションとデータ化
- 災害復旧
- 技術の紹介と日本の役割
- R R I
- 設計に関するもの
- 構造物の安全性等
- 洪水予測
- 気候変動を考慮した治水計画
- 海洋ごみ、マイクロプラスチック
- 海岸構造物を設計するに当たり行う
実験的検討や数値解析のテーマ
- 数値モデルの発展
- 斜面崩壊
- グリーンインフラ
- 測量技術や環境面も考慮したもの
- 河川構造物
- 社会学や都市計画が面白かったです。
- 漂砂・海浜変形
- 海岸堤防の維持管理
- 消波ブロックの機能性
- れき浜の地形変化特性
- 数値解析の基礎（モデルや手法），応用
（津波・高潮・洪水・浸水・土砂移動，
プログラミング方法，パラメータ設定の
注意など）
- 模型実験方法と相似則について→実験結果
の解釈と注意など
- 実験的研究に関する内容
- 海岸・港湾，耐震粘り強い等の設計分野
のテーマ
- 海岸環境，河川と海岸の接続部分
- かわまりづくりなどの河川環境分野
災害
- 学で研究されていて、今後、民が実修と
して取り扱う、最先端の部分を知りたい。
- 流砂シミュレーション
- 様々な分野の国が採用している策（エン
ジン）についても知りたい。現状と研究
とのギャップを知りたい。

意見等

- ビデオがあるのは良いです・日本だけでなく、**世界中の研究に関する研究があれば良い**です。
- 講師の方々が例を交えてわかりやすく説明しておられました。大変分かりやすい研究となりました。ありがとうございました。
- 初めて参加しましたが、とてもおもしろいお話を聞くことができよかったです。官・学の貴重な話が聞くことができ、とても勉強になりました。
- **PPT資料を可能な範囲で提供して頂きたかった。AもBも両方の講義を見たくて非常に悩ましい。**
- **もっと様々な分野のお話**が聞けると良かったです。
- **資料のカラー化 or DL可能**にしていただけると助かります。
- **パワーポイントを公開**していただきたい
- **テキストの図面がカラー**でないとレンジが読み取れないところが多い。テキストの内容とスライドの内容があまり一致しない場合は**スライドを配布**(ネット公開)してほしい。CPDに関する説明をしてほしい。
- とても貴重な講演ばかりで、とても自分のためになりました。ありがとうございました。
- 有意義な講義内容ばかりでした。
- **建設コンサルタント向けの講習会**を開いて欲しい。会場の温度調整が下手でした。
- **「講義集」カラー化**したものを**ダウンロード**できるようにならないか
- 学際的？分野を超えた講義を開けて大変興味深かったです。
- 会場内の案内や進行がとてもスムーズでした。いろいろとご準備ありがとうございました。
- 非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- 次回よろしくお願いします。
- 学ぶことが多かった。1限目だけしすった
- 貴重な講演を多く聴くことができ大変勉強になりました。
- **講義集のカラー化と電子化、参加費の低価格化**を実現していただけるとうれしいです。
- 災害ごみや行政側の計画策定等、普段あまり接する機会のない講義等大変勉強になりました。

**スライドへの対応：Webでの公開に向けて、講師にできる範囲での提供を依頼
9/15現在、共通とBについては概ね提供いただいた。」**

第24回

水シンポジウム

2019 in しが

マザーレイク
 森・川・里・湖のつながりの再生を目指して

8月22日(木) **入場無料**
シンポジウム (定員400人)

10:00 ~ 17:00 (9:30開場)
 会場:ピアザ淡海(2F ピアザホール)

特別講演、基調講演、パネル展示
 テーマ別分科会①・②、市民団体による発表、全体会議

8月23日(金)

現地見学会 (定員40人)

～琵琶湖の治水・利水・環境巡り～

・赤野井湾(守山市) ・瀬田川洗堰(大津市)
 ・琵琶湖博物館(草津市) ・琵琶湖疏水(大津市) など

9:00(出発) ~ 16:10(解散)

【集合】8:45 / JR大津駅(北口)

【参加費】2,100円(昼食代、保険代、施設入場料込)

※学生、お子様の参加費につきましては別途お問合せください。

写真提供:(公社)びわこビジターズビューロー



主催 第24回水シンポジウム2019 in しが 実行委員会 (構成団体:公益社団法人土木学会水工学委員会、国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、大津市)

協賛 (一社)近畿建設協会、一般社団法人日本建設情報総合センター 近畿地方センター、(一社)日本建設業連合会 関西支部、
 (一社)建設コンサルタンツ協会 近畿支部、公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構、(一社)滋賀県建設業協会、
 (一社)滋賀県建設コンサルタント協会、(一社)滋賀県測量設計技術協会、(一社)関西地質調査業協会、滋賀県河港・砂防協会

このシンポジウムは、土木学会継続教育(CPD)プログラムの認定を受けています。

このシンポジウムは、公益財団法人河川財団による河川基金の助成および一般財団法人防災研究協会による助成を受けています。



河川基金

第24回 水シンポジウム 2019 in しが

琵琶湖は275億トンもの水をたたえ、近畿圏約1,450万人の生活と産業を支える水源であり、治水機能や観光資源など、様々な役割を担うとともに、400万年の歴史を持つ古代湖であり、多様な生物を育み、多くの固有種や食料となる魚介類が生息しています。また、本年は、甚大な被害をもたらした昭和34年9月の伊勢湾台風の来襲から60年の節目を迎えます。近年においても相次ぐ台風の襲来や線状降水帯に伴う豪雨により、河川の氾濫や琵琶湖の水位上昇が頻発する等、想定外にも備える防災・減災の重要性が、改めて強く認識されているところです。

このような中、滋賀県では、平成26年度に「滋賀県流域治水の推進に関する条例」を制定し、どのような洪水にあっても、県民の生命を守り、甚大な被害を回避するための対策を進めるとともに、平成29年度には「琵琶湖の保全再生に関する計画」を策定し、森、川、里、湖のつながりや人の暮らしと湖とのつながりの再生を進めているところです。

滋賀県では、古来より人々の暮らしに密接に関わってきた琵琶湖やその周辺の河川について「滋賀から発信するしなやかで強靱な流域治水のあり方」、「水辺を活かした、まちづくりと環境保全の相乗効果」に着目し、これからの水との関わり方についての提案を、滋賀から全国へ発信します。

8月22日(木) シンポジウム 入場無料

【午前の部】 10:00 開会 (9:30 開場)

10:35 特別講演(50分) 「しのび寄り地球温暖化影響とそれへの適応とは？」
講師：京都大学 防災研究所 教授 気象・水象災害研究部門 水文気象災害研究分野 中北英一氏

11:25 基調講演(50分) 「滋賀県発、持続可能社会への挑戦 -科学と政策をつなぐ-」
講師：滋賀県琵琶湖環境科学センター長 内藤正明氏



中北英一氏



内藤正明氏

【午後の部】

13:15 分科会(第1・第2) →
14:55 休憩(15分)
15:10 市民団体発表
① 近江八幡市立馬淵小学校5年生
② オーパルオプテックス(株)
15:50 全体会議
16:50 次回開催県挨拶
17:00 閉会

◆第1分科会 (2F ピアザホール)

- ・テーマ 「滋賀から発信するしなやかで強靱な流域治水のあり方」
- ・コーディネーター 杉原裕司(土木学会水工学委員会基礎水理部会/九州大学 教授)
- ・パネリスト 瀧健太郎(滋賀県立大学 准教授) 村口智一(米原市都市計画課) 真鍋政彦(日経コンストラクション副編集長)
- 里深好文(立命館大学 教授) 岸田孝史(滋賀県土木交通部流域政策局長) 安田清明(東近江市葛巻区前防部会長)
- 大沢昌玄(日本大学理工学部 教授) 大山武人(NHK大津放送局アナウンサー)

◆第2分科会 (3F 大会議室)

- ・テーマ 「水辺を活かしたまちづくりと環境保全の相乗効果」
- ・コーディネーター 立川康人(土木学会水工学委員会/京都大学 教授)
- ・パネリスト 佐藤祐一(滋賀県立琵琶湖環境科学センター 主任研究員) 松澤秀夫(大津市未来まちづくり部次長)
- 秋村洋(株)まちづくり大津) 三和伸彦(滋賀県琵琶湖環境部技監)
- 石上僚(株)みらいもりやま21) 堀田伸之(近畿地方整備局琵琶湖河川事務所長)

8月23日(金) 現地見学会

～琵琶湖の治水・利水・環境巡り～(定員40名)

*現地見学会は先着順のため、ご希望に添えない場合がございます。

●参加費：2,100円(昼食代、保険代、琵琶湖博物館常設展示観覧料込)

*学生、お子様の参加費につきましては別途お問合せください。

8:45 集合(JR大津駅 北口)

9:00 出発 見学① 赤野井湾流域流出水対策施設(守山市杉江町)
見学② 滋賀県立琵琶湖博物館(草津市下物町)
見学③ 瀬田川洗堰・水のめぐみ館アクア琵琶(大津市南郷)
見学④ 琵琶湖疏水(大津市大門通)

16:10 解散(JR大津駅 北口)

現地見学会につきましては、万が一に供え「レクリエーション保険」等に加入していただきます。また、参加費は当日現地受付にてお支払いください。ご記入いただいた個人情報は、お申込みのイベントに関連した連絡のみ使用いたします。

シンポジウム・現地見学会 参加申込方法

要申込

締切：8月2日(金) 必着

FAXから ▶下記の申込書に必要事項を記入してご送付ください。

FAX. 077-545-1829 まで

メールから ▶ホームページ内から申込書をダウンロードいただき
項目を明記の上、下記アドレスまでお送りください。

mizushinpo2019@honsho.co.jp まで

「第24回水シンポジウム2019inしが」ホームページ

アドレス▶<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/kasenkoan/304628.html>

参加申込お問合せ(平日9:00-17:00)

水シンポジウム2019inしが受付事務局(株)本庄内 TEL:077-545-1302

FAX専用 お申込書

締切：8月2日(金)

シンポジウム・現地見学会へのお申し込みについて、複数の場合は、代表者名と参加者名にご記入をお願いします。

FAX番号 077-545-1829 【(株)本庄行】

参加希望企画	<input type="checkbox"/> シンポジウム <input type="checkbox"/> 現地見学会 <input type="checkbox"/> 両日参加			シンポジウム	現地見学会	参加者氏名	年齢
フリガナ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		歳
代表者氏名			年齢	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		歳
住所				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		歳
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		歳
所属団体							
電話番号			FAX番号				
弁当申し込み	※8/22シンポジウム用・お茶付き¥600 <input type="checkbox"/> 申し込む(個)			メールアドレス		@	

開催内容
お問合せ

第24回水シンポジウム2019inしが実行委員会事務局(滋賀県流域政策局)
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号 TEL:077-528-4274

担当 梅田信(東北大), 川村里実(寒地土研)
大槻順朗(土研), 田井 明(九大)

水工学委員会メニュー

- 水工学委員会ホーム
- ▷ 水工学委員会について
- 部会・小委員会・懇談会など
- 水工学に関する夏期研修会
- 水シンポジウム
- お知らせ
- 水工学メーリングリスト
- 委員専用

水工学講演会WEBページ

- ▷ 水工学講演会のWEBページ

■ 水工学委員会のサイトに登録用リンクの作成

- 登録用フォーム（次ページ）から登録ができるように
- ・ 加入は学会非会員でも可
 - ・ 属性（会員，学生，非会員）の入力あり

■ MLの活性化（特に学生の勧誘）が目的の一つ

- ご協力ください（研究室の学生，職場の同僚，若手に対して）

■ 管理運用体制の整理

- ・ 「利用運用規則」の作成
詳細は，当該ページあるいはML配信（10月25日）から参照。

水工学ML登録

作業負荷の軽減のため、MLへの登録には1ヶ月程度時間を要する場合があります。ご了承ください。

*必須

メールアドレス*

メールアドレス

お名前*

例：土木 太郎

回答を入力

土木学会会員種別*

正会員/フェロー会員

学生会員

2019年度スケジュール (赤字は未確定)

	水工学委員会, 編集小委員会	部会, 小委員会	その他 (共催)
2019年4月		4/1 基礎水理部会・基礎水理 WS4/13 グローバル小委員会・適応シンポ	
5月	5/31 水工学論文集締切		
6月	6/6 第一回水工学委員会 6/7 第一回編集小委員会幹事会, 第一回編集小委員会	6/4 基礎水理部会・流木研究会 in 富山 6/11-12 河川部会・河川シンポジウム 6/20-22 環境水理部会・研究集会 in 岩木川 6/26-28 基礎水理部会・iRIC 講習会	
7月	7/11 第二回編集小委員会 (メール審議, 執行部は会議)	7/12 流量小委員会・流量観測高度化に関する勉強会@名大	
8月	8/7 第三回編集小委員会 (メール審議) 8/20 第二回編集小委員会幹事会 8/22-23 水シンポジウム in 滋賀 (執行部+基礎水理部会)	8/26-27 基礎水理部会・流砂・河床変動若手研究会 in 札幌	
9月		9/3-5 土木学会全国大会研究討論会 (グローバル小委員会)	9/9 日米沿岸生態系に関する講演会@土木学会
10月		10/27-29 基礎水理部会・現場見学会 in 富山 10/31-11/1 水文部会・研究集会 in 由良川	
11月	11/4~6 第64回水工学講演会@大宮, アゲールシンポ (グローバル小委員会), 河川災害シンポ (水害対策小委員会) 11/4 第二回水工学委員会	11/18-22 CommonMP 研修会@国土交通大学校	
12月		12/11 流域管理小委員会・ワークショップ@土木学会 12/? 流量小委員会・勉強会 in 札幌	
2020年1月		1/14 河道管理研究小委員会・ワークショップ	
2月			
3月		3/18 基礎水理部会・基礎水理シンポジウム@土木学会	
4月		4/? 流量小委員会・合同観測 in 新潟	
5月	5/31 水工学論文集締切	5/? 流量小委員会・合同観測 in 北海道	
6月	6/? R2年度第一回水工学委員会	6/10-11 河川部会・河川シンポジウム	

第65回水工学論文集 編集作業について(会議予定素案)

協議1

開催日	会議	会場
2020年5月1日(金)	論文投稿受付開始	
2020年5月29日(金)	論文投稿受付締切	
2020年6月初旬	第一回編集小委員会幹事会	土木学会??会議室
2020年6月初旬	第一回水工学委員会 & 幹事会 第一回編集小委員会	土木学会??会議室
2020年6月30日(火)	第1回査読期限	
2020年7月初旬	第二回編集小委員会(メール審議)	
2020年7月31日(金)	修正原稿締切	
2020年8月初旬	第三回編集小委員会(メール審議)	
2020年8月20前後	第二回編集小委員会幹事会	土木学会??会議室
2020年8月上記の後	最終原稿締切	
2020年11月4-6日	第65回水工学講演会	富山市

第65回水工学講演会 開催計画

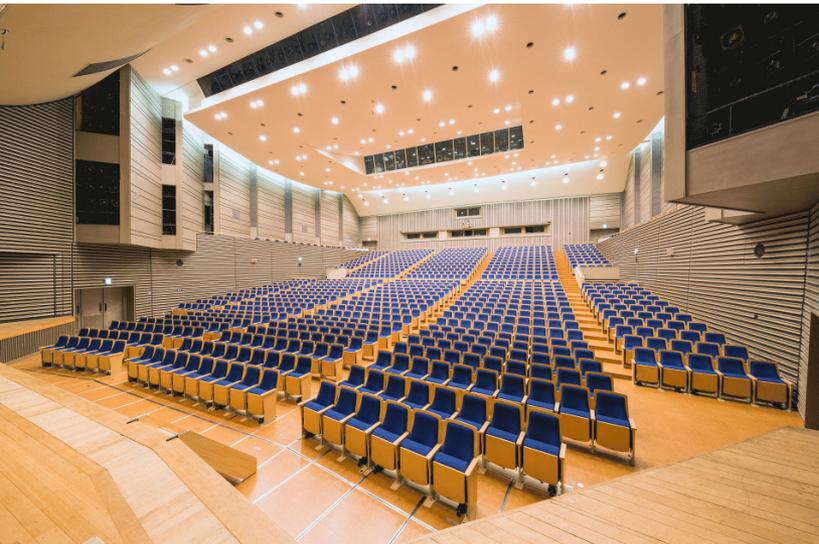
開催日時 2020年11月4日(水)、5日(木)、6日(金)

協議2

開催場所 富山県民会館 (<https://www.bunka-toyama.jp/kenminkaikan/>)

富山きときと空港から富山市役所前まで 直通バス25分

富山駅から徒歩10分



第1会場兼
シンポジウム会場

第65回水工学講演会

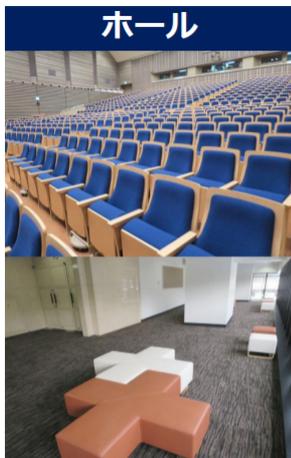
開催計画

部屋割と予算案

時間区分			1日目(11/4)		2日目(11/5)		3日目(11/6)		合計
部屋種別	部屋番号	定員(学校)	9時～22時		9時～22時		9時～22時		
事務局	509号室	42	19,900		19,900		19,900		59,700
会場1	ホール	1000	154,100		154,100		154,100		462,300
会場2	304号室	144	98,150		98,150		98,150		294,450
会場3	401号室	153	50,700		50,700		50,700		152,100
会場4	611号室	90	44,100		44,100		44,100		132,300
会場5	701号室	81	40,350		40,350		40,350		121,050
会場6	702号室	45	25,350		25,350		25,350		76,050
時間区分					部会(3時間)				
委員会①	501号室	24	/	/	/	5,850	/	/	5,850
委員会②	502号室	18	/	/	/	3,950	/	/	3,950
委員会③	503号室	24	/	/	/	5,100	/	/	5,100
委員会④	504号室	24	/	/	/	4,850	/	/	4,850
委員会⑤	508号室	24	/	/	/	5,850	/	/	5,850
								合計	1,323,550
								県後援(15%割引)	1,125,018
								県共催(30%割引)	926,485
								県観光振興室学会等補助金	-200,000
								(県外1名につき1000円補助, 但し上限20万)	
								富山市コンベンション開催事業補助金制度	-450,000
								(3日間、最大399人が参加と仮定)	
								県後援(15%割引)と仮定	475,018

全て予約済みです。

1 会場



ホール

仕様		主な附属設備の料金 (円)		ご利用例・備考
舞台	間口 16m	張出舞台	5,340	楽屋 4 室 ・搬入用EV W×D×H 5.6×2.2×2.5m 最大積載量 3,100 kg ・搬入口 11 t 車2台乗入可
	奥行 11m	オーケストラピット	6,060	
	プロセ高 7m	反響板	4,960	
客席数	1,105席 (固定席)	フルコンサートピアノ (外国製)	11,840	
	1,057席 (張出舞台)	フルコンサートピアノ (日本製)	6,080	
その他	暗転幕飛切高18.5尺			

時間	9~12時	13~16時	17~22時	9~16時	13~22時	9~22時	超過及び時間外1時間の金額
料金(円)	平日 32,950	82,400	115,350	98,900	164,800	181,300	32,950
	土・日・祝 37,892	94,760	132,652	113,735	189,520	208,495	37,892

第2 会場



304号室

仕様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	144人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	54人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	210人	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	268㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	81坪	演台・司会台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	15×17.9×4.2m			
床	ジュウタン			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	40,900	49,100	57,250	65,450	73,600	81,800	85,050	88,350	91,600	94,900	98,150	13,650

第3 会場



401号室

仕様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	153人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	84人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	200人	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	228㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	69坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×26.8×2.5m			
床	カーペット			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	21,150	25,350	29,600	33,800	38,050	42,250	43,950	45,650	47,300	49,000	50,700	7,050

第4会場



611号室

仕様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	90人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	66人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	120人	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	185㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	56坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×21.8×2.5m			
床	タイルカーペット			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	18,400	22,050	25,750	29,400	33,100	36,750	38,200	39,700	41,150	42,650	44,100	6,150

第5会場



701号室

仕様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	81人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	60人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	169㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	51坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×19.8×2.5m			
床	タイルカーペット			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	16,850	20,200	23,550	26,950	30,300	33,650	35,000	36,350	37,650	39,000	40,350	5,600

第6会場



702号室

仕様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	45人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	42人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	106㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	32坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×12.5×2.5m			
床	タイルカーペット			

机を外し、椅子のみとする。

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	10,600	12,700	14,800	16,950	19,050	21,150	22,000	22,850	23,650	24,500	25,350	3,550

委員会①



501号室

仕 様	主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考	
学校式	24人	拡声装置 (マイク1本付)	会議、講習会、文化教室	
口の字	24人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)		2,540
イス	—	ワイヤレスマイク 1本		730
面積	63㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)		1,370
	19坪	演台・ホワイトボード		2,980
W×D×H	6.5×9.6×2.5m			無料
床	ビータイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	5,850	7,000	8,200	9,350	10,550	11,700	12,150	12,650	13,100	13,600	14,050	1,950

委員会②



502号室

仕 様	主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考	
学校式	18人	拡声装置 (マイク1本付)	会議、講習会、文化教室	
口の字	18人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)		2,540
イス	—	ワイヤレスマイク 1本		730
面積	42㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)		1,370
	13坪	演台・ホワイトボード		2,980
W×D×H	6×7×2.5m			無料
床	ビータイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	3,950	4,750	5,500	6,300	7,050	7,850	8,150	8,450	8,800	9,100	9,400	1,300

委員会③



503号室

仕 様	主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考	
学校式	24人	拡声装置 (マイク1本付)	会議、講習会、文化教室	
口の字	24人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)		2,540
イス	—	ワイヤレスマイク 1本		730
面積	54㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)		1,370
	16坪	演台・ホワイトボード		2,980
W×D×H	6.5×8.3×2.5m			無料
床	ビータイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	5,100	6,100	7,100	8,150	9,150	10,150	10,550	10,950	11,350	11,750	12,150	1,700

委員会④



504号室

仕 様	主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考	
学校式	24人	拡声装置 (マイク1本付)	会議、講習会、文化教室	
口の字	24人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)		2,540
イス	—	ワイヤレスマイク 1本		730
面積	52㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)		1,370
	16坪	演台・ホワイトボード		2,980
W×D×H	6.5×8×2.5m			無料
床	ビータイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	4,850	5,800	6,750	7,750	8,700	9,650	10,050	10,450	10,800	11,200	11,600	1,600

委員会 ⑤



508号室

仕様		主な附属設備の料金(円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	24人	拡声装置(マイク1本付)	2,540	会議、講習会、文化教室
口の字	24人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本(有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	63㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	19坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×6.5×2.5m			
床	ビーターイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	5,850	7,000	8,200	9,350	10,550	11,700	12,150	12,650	13,100	13,600	14,050	1,950

事務局



509号室

仕様		主な附属設備の料金(円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	42人	拡声装置(マイク1本付)	2,540	会議、講習会、文化教室
口の字	36人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本(有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	89㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	27坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	6.5×13.7×2.5m			
床	ビーターイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	8,300	9,950	11,600	13,300	14,950	16,600	17,250	17,900	18,600	19,250	19,900	2,750

その他

- 富山県立大学の呉先生、富山大学の木村一郎先生にご協力いただく。
- 懇親会会場は今後の検討課題。
- 特別講演も未定。
- 翌土曜日に見学会の企画を検討中。
- 昼食会場は周辺にたくさんあります。
- ホテル等、宿泊の斡旋はいたしません。

開催期間: 令和2年8月27日(木)ー28日(金)

開催場所: 高知市商工会館(予約済み)

<http://kochi-syokokaikan.arrow.jp/>

募集人数: 各コース150名

<担当>

水工学: 高知大学張浩先生、高知高専岡田将治先生

海岸工学: 徳島大学山中亮一先生

- トップページ
Toppage
- 会場のご案内
Information
- ウェディング
For Weddings
- 宴会・パーティー
For Party
- 集会各種・展示会
For Assembly
- レストラン・喫茶
For Meals
- お料理
Cuisine
- 交通アクセス
Access Map



笑顔で集まるイベントプラザ

各種貸会場・総合結婚式場・喫茶レストラン・駐車場

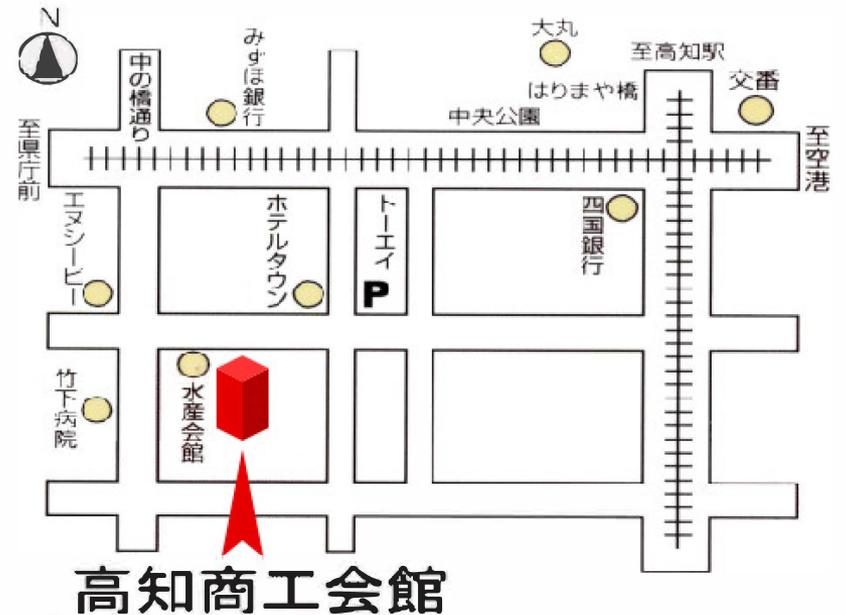
高知商工会館は高知市内中心地にあり、立地条件の良さと便利さが訪に喜ばれています。建物は耐震工事を完了し安心して快適なプラザとしくどなたでもご利用いただけます。

[ご利用お申込み書はこちら \(PDFファイル\)](#)
FAXにてご送付ください。(088-825-3



交通アクセス

■ 高知商工会館までの地図



- JR高知駅より徒歩15分
- 土電はりまや橋電停より徒歩7分
- 土電堀詰電停・バス停より徒歩3分
- 高知龍馬空港より車で30~40分

別表1

「第25回 水シンポジウム2020 in ぐんま」実行委員会等名簿（案）

別表1 実行委員会（◎実行委員長）

	機関名	役職名	氏名	備考1	備考2
◎	土木学会水工学委員会	委員長	清水 義彦	群馬大学	
	関東地方整備局河川部	部長	佐藤 寿延		
	群馬県県土整備部	部長	岩下 勝則		
	高崎市建設部	部長	宮石 修		
	土木学会水工学委員会	幹事長	二瓶 泰雄 ※1	東京理科大学	
	土木学会水工学委員会	委員	平川 隆一	前橋工科大学	
	土木学会水工学委員会	委員	永野 博之	群馬高専	
	関東地方整備局高崎河川国道事務所	所長	福井 貴規		
	関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所	所長	小宮 秀樹		
	独立行政法人水資源機構	関東事業室長	木下 昌樹		
	独立行政法人水資源機構沼田総合管理所	所長	小坪 洋巳		

※1 企画部会を兼務

※2 委員がやむを得ない事由により欠席する場合、その委員がその所属する団体や会の役員等の中から代理人を定め、その者を代理人として出席させることができることとする。

別表2 企画部会（○企画部会長）

	機関名	役職名	氏名	備考1	備考2
○	土木学会 水工学委員会	幹事長	二瓶 泰雄	東京理科大学	
	土木学会 水工学委員会	水文部会長	田中 賢治	京都大学	
	土木学会 水工学委員会	委員	芳村 圭	東京大学	
	土木学会 水工学委員会	委員	平林 由希子	芝浦工業大学	
	関東地方整備局河川部	河川計画課長	渡邊 加奈		
	関東地方整備局高崎河川国道事務所	副所長	宮崎 勝巳		
	関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所	副所長	上岡 友幸		
	群馬県県土整備部	参事兼河川課長	西澤 洋行		
	高崎市建設部土木課	課長	牧野 宏之		
	独立行政法人水資源機構ダム事業部	ダム管理課長	花田 弘幸		
	独立行政法人水資源機構沼田総合管理所	副所長	小林 真幸		

別表3 事務局

	機関名	役職名	氏名	備考1	備考2
	土木学会	研究事業課	林 淳二		
	土木学会 水工学委員会	委員	鶴崎 賢一	群馬大学	
	関東地方整備局河川部河川計画課	建設専門官	小宮山 隆		
	関東地方整備局河川部河川計画課	調査第一係長	濱田 貴弘		
	関東地方整備局高崎河川国道事務所工務第一課	課長	小林 修		
	関東地方整備局高崎河川国道事務所工務第一課	河川調査係長	浅見 知子		
	関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所調査課	課長	城田 健一		
	関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所調査課	計画係長	石井 隼樹		
	群馬県県土整備部河川課	技術次長	米山 智雄	事務局長	
	群馬県県土整備部河川課	河川企画係長	野口 晴信		
	群馬県県土整備部河川課	主幹	岡部 隼也		
	群馬県県土整備部河川課	副主幹	五十嵐 豪		
	群馬県県土整備部河川課	主事	大橋 麻湖		
	高崎市建設部管理課	課長補佐	藤岡 勉		
	独立行政法人水資源機構関東事業室	室長補佐	石塚 泰信		
	独立行政法人水資源機構ダム事業部ダム管理課	副参事	田中 幹大		
	独立行政法人水資源機構沼田総合管理所	管理課長	小林 昌運		

日程・会場（案）について

【日 程】

これまでの水シンポジウムは夏休み期間中の開催だが、来年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックに配慮し、

2020年11月12日（木）から11月13日（金）〔2日間〕

の開催としたい。

- ◇ 11月12日（木） シンポジウム
- ◇ 11月13日（金） 現地見学会

【会 場】

会場については、収容人数、立地条件、会場使用料などを考慮し、次のとおりとしたい。

Gメッセ群馬（高崎市上中居町）高崎駅東口から徒歩15分）

- ◇メイン会場 ：大会議室（4階）（約500席）
 - ◇第1分科会会場 ：大会議室（4階）（約500席）
 - ◇第2分科会会場 ：中会議室（3階）（約200席）
- ※別会場で同時進行する場合
- ・控え室等 ：（小会議室等を確保する予定）



案内図

JR高崎駅から
徒歩約**15分**(約1.1km)

関越自動車道
高崎玉村スマートICから
車約**15分**

※高崎芸術劇場は2019年9月開業予定です。

高崎駅
上越新幹線
高崎アリーナ
国道354号
高崎芸術劇場
Gメッセ群馬
環状線
競馬場通り線
至高崎玉村スマートIC

1F

主催者事務室A 主催者事務室B 主催者事務室C

展示ホール

特別応接室

2F

メインホール

展示ホール吹抜

中会議室

3F

メインホール吹抜

展示ホール吹抜

中会議室

4F

展示ホール吹抜

大会議室

「第 25 回 水シンポジウム 2020 in ぐんま」
メインテーマ（案）

利根川水源県ぐんまからの発信
～歴史、文化、自然の恵みを未来へつなぐために～

<主旨（着眼点）>

利根川は、群馬県の北部県境にある大水上山（みなかみ町）を水源とし、さまざまな支川が合流し関東平野を東に流れ、千葉県銚子市で太平洋へ注ぎます。その流域は、群馬県・栃木県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都の 1 都 5 県にわたり、流域面積約 16,840km² で日本一を誇り、利根川の水の恵みは首都圏 3000 万人の水がめとしての役割も果たしています。別名「坂東太郎（ばんどうたろう）」とも呼ばれて親しまれており、日本暴れ 3 河川の 1 つとされています。

江戸時代には、洪水の防止、江戸を中心とした舟運体系の確立等を目的とした工事が行われ、米などの物資や人を輸送し、船着場は川の港として栄えました。明治時代には、世界遺産である富岡製糸場などで生産された生糸を、舟で東京・横浜へ輸送し、群馬の産業を支えました。

近代では、昭和 22 年 9 月に発生したカスリーン台風によって、未曾有の大洪水となり、関東 1 都 5 県において、死者 1,100 名、家屋倒半壊 31,316 戸と非常に大きな被害をもたらしました。群馬県でも、特に赤城山周辺をはじめ、前橋市、伊勢崎市、桐生市などで多くの被害を出しました。その後造られた上流のダム群は、洪水から人々を守り、人々の暮らしを支えています。

また近年、平成 29 年 9 月に発生した関東・東北豪雨の線状降水帯や、先般の台風 19 号などに見られる猛烈・大型の台風などは、これまでの予想を上回っており、今後一層のハード・ソフトの一体的な対応が必要であると言えます。中小河川においても甚大な被害が発生していることも踏まえ、群馬県では主要河川の洪水浸水想定区域図の見直しに加え、県管理の全河川について水害リスク調査に着手し、市町村・国・県等関係機関の連携を図るため「群馬県減災対策協議会」を設立しました。

このような状況のなか群馬県における、環境、文化、災害等の経験を踏まえ、「《第 1 分科会テーマ》」や「《第 2 分科会テーマ》」などについて議論し、社会環境、気象環境が変化する中で、水源県としての立場から治水・利水の在り方について提言し、全国に発信していきます。

「第25回水シンポジウム2020 in ぐんま」 プログラム(案)

【案1】…分科会を別会場で同時進行(例年どおり)

■ 11月12日(木) 第1日目 シンポジウム

会場：Gメッセ群馬(400人程度を想定)

【午前の部：メイン会場(4F 大会議室)】

9:30 開 場

10:00 開 会(35分)

シンポ趣旨説明(2分) 司会

開会挨拶(8分) 実行委員会委員長

実行委員紹介(2分) 司会より紹介、壇上一礼

来賓挨拶(各5分) 群馬県知事、高崎市長、関東地方整備局長

プログラム案内(3分) 司会

10:35 特別講演(50分) 講師未定

11:25 基調講演(50分) 講師未定

12:15 昼 休 憩(60分)

【午後の部：分科会等】

13:15

テーマ別分科会(100分)

第1分科会 担当：土木学会

会場：4F 大会議室 約500席

第2分科会 担当：行政

会場：3F 中会議室 約200席

14:55 休憩(15分)

15:10 市民団体等による発表(全体会議事前打合せ)(40分)

15:50 全体会議(60分)

各分科会まとめとメッセージ発信

16:50 次回開催県挨拶(10分)

17:00 閉 会

【パネル展示】(会場：4F 大会議室横ホワイエ)

■ 11月13日(金) 第2日目 現地見学会(見学先；未定)

定員 約40人を想定

【案2】 …分科会を同一会場で順に実施

■ 11月12日（木）第1日目 シンポジウム

会場：G メッセ群馬（400人程度を想定）

【午前の部：メイン会場(4F 大会議室)】

9：30 開 場

10：00 開 会（35分）

シンポ趣旨説明（2分） 司会

開会挨拶（8分） 実行委員会委員長

実行委員紹介（2分） 司会より紹介、壇上一礼

来賓挨拶（各5分） 群馬県知事、高崎市長、関東地方整備局長

プログラム案内（3分） 司会

10：35 特別講演（40分） 講師未定

11：15 基調講演（40分） 講師未定

11：55 昼 休 憩（60分）

【午後の部：分科会等】

12：55 第1分科会 担当：土木学会（80分） 会場：4F 大会議室

14：15 休憩（5分）

14：20 第2分科会 担当：行政（80分） 会場：4F 大会議室

15：40 休憩（10分）

15：50 市民団体等による発表（全体会議事前打合せ）（40分）

16：30 全体会議（30分）

各分科会まとめとメッセージ発信

17：00 次回開催県挨拶（10分）

17：10 閉 会

【パネル展示】（会場：4F 大会議室横ホワイエ）

■ 11月13日（金）第2日目 現地見学会（見学先；未定）

定員 約40人を想定

支出

		予定
水シンポ(2019)	旅費	¥400,000
	その他	¥400,000
第一回水工学委員会	旅費	¥1,000,000
	その他	¥400,000
部会	水文	¥150,000
	基礎	¥150,000
	河川	
	環境	¥150,000
小委員会	流量観測	¥150,000
	水害対策	¥150,000
	グローバル	¥150,000
	河道管理	¥150,000
	流域管理	
	COMMON MP	
	河川懇談会	¥150,000
	水工編集小委員会	¥300,000
その他	諸々	¥431,000
予備（万が一用にとっておきたい）		¥1,000,000
		¥5,131,000

収入

	2019年度
調査研究費	¥953,000
調査研究拡充支援金	¥4,178,000
合計	¥5,131,000

1. 予算確保(毎年400-500万円で実施)

- ・土木学会:(30~)90万円
 - ・河川財団:140万円
 - ・開催県・市:20万円×2
 - ・防災研究協会:20万円/小計290万円
- 開催地に依らない予算確保のため、水資源機構や財団に依頼中

2. 開催対応が可能な自治体の減少

- ・事務局となる県の負荷大
 - ・土木関係の部署の人員削減
 - ・災害対応の増加
- 水工学委員会がもっとバックアップ体制を強化するか、もしくは、未開催地に拘らず対応可能な県・市に依頼する。

水シンポジウム

回	年度	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
1	1996							鳥取	
2	1997					兵庫			
3	1998		福島						
4	1999			東京					
5	2000								熊本
6	2001				富山				
7	2002	札幌							
8	2003						愛媛		
9	2004							広島	
10	2005					大阪			
11	2006		宮城						
12	2007				愛知				
13	2008			千葉					
14	2009				新潟				
15	2010								福岡
16	2011					京都			
17	2012				岐阜				
18	2013						高知		
19	2014								長崎
20	2015				福井				
21	2016							山口	
22	2017								沖縄
23	2018				静岡				
24	2019					滋賀			
25	2020			群馬					

未 開 催 県		岩手県	茨城県	三重県	奈良県	徳島県	島根県	佐賀県
		山形県	栃木県	長野県	和歌山県	香川県	岡山県	大分県
		秋田県	埼玉県	石川県				宮崎県
		青森県	神奈川県	山梨県				鹿児島県